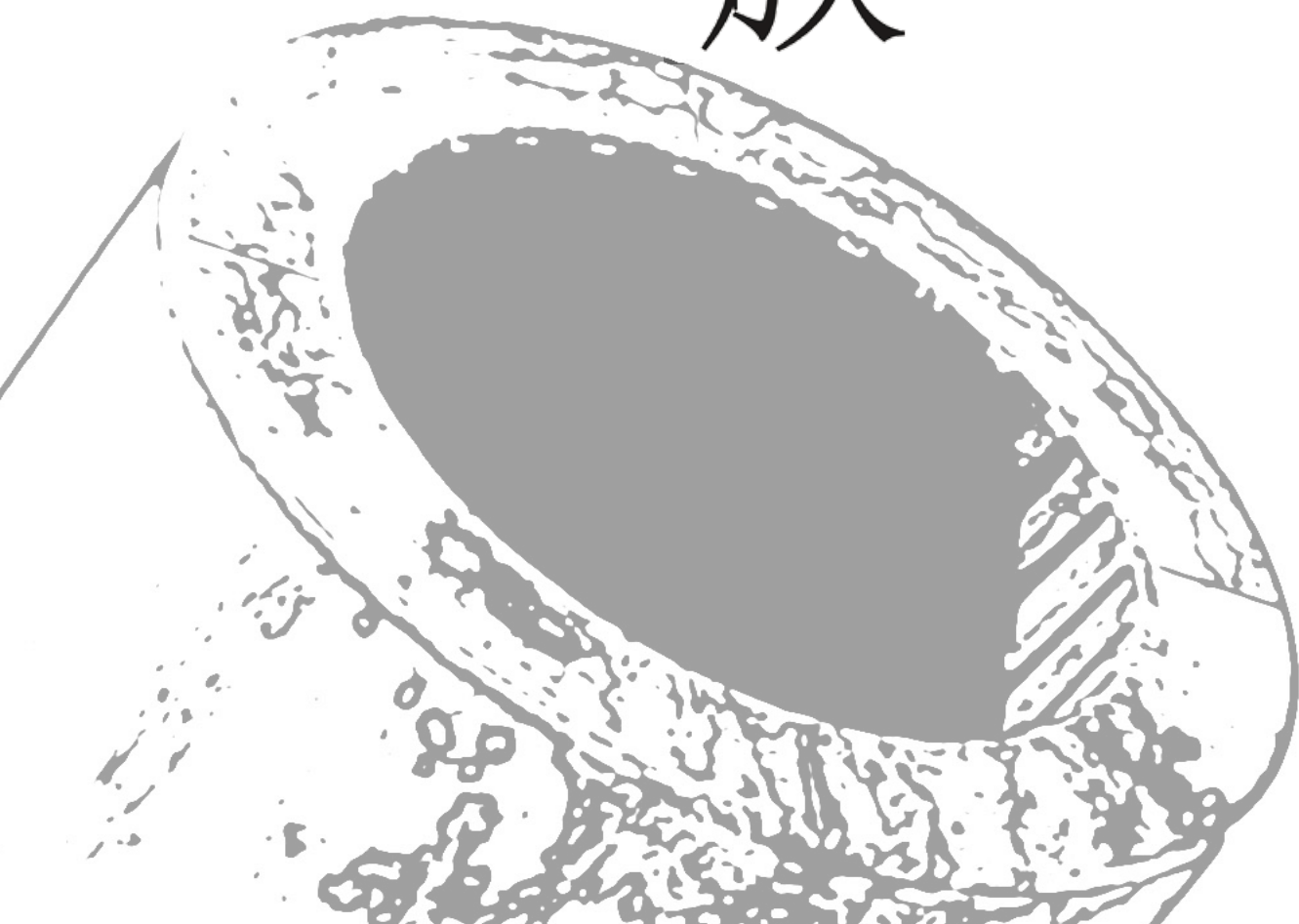


大砲の家族

作・泊篤志



登場人物

アガタ（兄）……………27歳。精神のバランスが安定しないので定職に就いてない。司祭になるべく、教会に通って勉強中。

カルド（弟）……………24歳。ミルドセブ青年将校。正規軍に昇格できないでいる。それは、父親が敵前逃亡の過去を持つから、かも知れない。

ニエフ（父）……………敵前逃亡の罪により、「大砲守」という名の「亡命者達のお守」を押し付けられている。いわゆるダメ親父だが、家族には愛されている。

キモエ（母）……………夫のニエフを支え、息子たちを厳しく躾けている。肝っ玉母さん。しかし、隠された過去があるらしい。

サザイホ（居候）……………かつての亡命者。3年前からこの家に居候している。母と何か因縁があるっぽい。

ゲティ（亡命者、兄）……………ユナゴルから来た亡命者。兄のゲティは研究者。妹と新天地を求めて来た。

レイルー（亡命者、妹）……………妹のレイルーは、タナビテに渡って来て以降、気持ちが悪くなる。祖国ユナゴルを愛している。

ダイノア（医者）……………もっともらしい理屈を語るが、嘘っぽい。が、意外や世界の状況を表す言葉を吐いている。

スクロブ（軍人、団地長）……………地域の監視役。団地長、町長など、地域のリーダー格は軍人が務めている。

ケイジェン（娘）……………スクロブの娘。やや知恵遅れの症状あり。アガタ、カルドの事が好き。

トエジエロ総統……………タナビテ軍で一番偉い人、らしい。お調子者で喋りが芝居がかっている。

「テダ家」の家の中。

リビングというほどではない、狭い食事スペース。

この家には、

・夫婦の部屋

・兄弟の部屋

・居候が住む部屋

・亡命者にあてがわれる部屋

・大砲部屋

があるが、それぞれの部屋の中は見えない（小窓を開けて、顔を覗かせる…程度）。

・キッチンへ行く通路

・玄関へと続く通路

がある。

① テダ家の食卓

夕食時、アガタ、カルド、の兄弟が夕食を食べながら、インゴインゴと呼ばれるカードを使ったゲームで遊んでいる。カードには花札の様な絵柄があり、その組み合わせによって「強さ」が変化し、相手が出してくるカードの組み合わせとの「強さ」を競う。勝った方が負けた側のカードを総取りする。大勝負に出て負けると強力なカードを失い、ダメージが大きい。カードを出す時に2人同時に「インゴインゴ！」と声を発する。たぶん「どっちが強い？」みたいな意味がある。食べながらのカードゲームなので、非常にお行儀が悪く、汚い。

ところで、アガタの頭には、奇妙なマシンが乗っていて、何だかふざけた印象を受ける。ゲームは次第にヒートアップして、喧嘩腰になってくる。

カルド ちよちよ、何それ。

アガタ は？何それち何か？

カルド ちよちよ、それ、ずるやろ。

アガタ 何がずるかちや。

カルド 兄ちゃん、ずるばつかりやん。

アガタ 何がずるかちや、何もずるいコトとかしとらんやろうが。

カルド それ今、ホントは3枚出しとったやん。

アガタ 2枚しか出しとらんちや。

カルド 3枚出して、負けるって分かって、その瞬間1枚下げたやろつちや。

アガタ 下げてねえちや。

カルド 見とったんやけね！ドドンコ下げたやろうもん！

アガタ ドドンコとか持つてねえちや。

カルド 嘘つくなちや。

アガタ 嘘とかついてねえちや。

カルド んなら、全部カード見せりいや。

アガタ おお、んなら見りやええやんか。

カルド 見るよ、見ていいんやね、見たら兄ちゃんの嘘とかずるが全部ばれるんやけね。

アガタ それでお前、無かったらどうするんかちや。

カルド はあ？

アガタ ドドンコ俺が持つとらんかったら、どうするんかちや。

カルド そんな訳ないやん。

アガタ 俺がドドンコ持つとらんやったら、お前、俺の言う事なんでも聞けよ。

カルド はあ？何それ。

アガタ お前、そんだけ俺に嘘つき呼ばわりしとって、んで、俺の潔白が認められたら、お前、俺、許さんけの。

カルド そんなんある訳ないやん。

アガタ お前の見間違えかも知れんぞ。

カルド ちゃんと見たもん。

アガタ なら、俺のカード全部見てみるや。

カルド いや、見らんでも分かる。

アガタ 俺の嘘とかずるを証明してくれやおい。

カルド 絶対するしとるのに…。

アガタ お前自信が無いんやろうが、おお？

カルド くそ！

アガタ 万が一、自分が見間違えとって、んで、ドドノコのカードが見つからんやったら俺の言いなりにならんといけんって言うのが耐えられんやろ？

カルド 絶対兄ちゃんの方が悪いのに。

アガタ 悪くねえちや。これがインゴインゴのルールやろうもん。

カルド そんなんずるするのとかルールやないちや。

と、その様子を居候のサザイホが小窓から覗き見ている。

サザイホ まあまあまあアガタくん、そこら辺にしとかんね。

アガタ 何なんすか、あんた。

サザイホ たかがカードゲームやんね。

アガタ これ、俺ら兄弟の問題なんで、口出しせんてください。

サザイホ はいはい、うん、ここはね、アガタくんの勝ちや、うん。

カルド 勝ちやないですよ。

サザイホ カルドくん。

カルド ルール違反はルール違反です。

サザイホ ルール違反の証明をすることによって、傷つくのは君かも知れんよ。

アガタ うるさいお前、ごくつぶしの居候のくせに。

サザイホ アガタくん、僕は君より年上だよ、先輩だよ。年上は敬わないと。敬語を使わなきや。

アガタ サザイホさん。

サザイホ はい。

アガタ あなたうるさいですよ。

カルド 黙っててください。

サザイホ ー、ね。

アガタ 俺らと、サザイホさんは、無関係なんですから。

サザイホ そうかなー？

カルド うるさいおっさんやなあ。

サザイホ カルドくんはさ、正規軍に昇格できたの？

カルド ちっ、何なんすか。

サザイホ まーだ、ミルドセブ青年将校のままなんやろ、いい歳こいて。

カルド あんたね。

サザイホ 24歳で青年将校かあ。落ちこぼれなんじゃない？

カルド …何が言いたいんですか。

サザイホ いやいや、事実を口にしただけです。あれれ？青年将校って確か20歳までじゃない？みたいな。もう4年も過ぎちゃってるけど、大丈夫かなーって、心配？って言うの？

カルド 心配おかけしてすみません。

サザイホ やっぱテダ家の息子だからねえ。

アガタ テダ家の息子やったら、何なんですか。

サザイホ やっぱ家柄が悪いっていうのかな？

アガタ あんたはそんな家柄の悪い俺らテダ家の世話になっとるんでしょ？

サザイホ 痛いトコついてくるね、そうだね、ゴメンね。

アガタ 腹立つわ。

サザイホ アガタくんもさ、そんな言葉づかいが汚いから「司祭になれない」んだよ。

アガタ 何かちや、きささん。

サザイホ あー汚い！言葉が汚い！ダメダメそれ、宗教の人にはなれないなあ。

アガタ お前、いいかげんにせえよ。

サザイホ そんなんじや何年教会に通つても、勉強しても無理無理。何歳になるんだっけアガタくん。

アガタ ……さあ。

サザイホ 30歳？

アガタ 27です。

サザイホ そろそろ限界じゃない？

アガタ うるさい。

サザイホ やっぱ家柄が悪いんだろうねえ。テダ家の息子だもんねえ。

アガタ あんたウチに世話になつとるんやろ？

サザイホ はい、お世話になつてます。でも、あんたら兄弟の世話にはなつて…。

カルド ただ飯食うてから。

サザイホ 君らだつて、ただ飯食つてんだろ？いい歳して。

カルド 少しは稼いでます。

サザイホ 食費にもならないほどのお給料。お兄ちゃんは司祭見習いで稼ぎ無し。

カルド やけ、何なんか。

サザイホ いえ、何も。

カルド やけ、何なんかちや。

サザイホ カルドくんも口が悪いねえ。

カルド ちつ。

アガタ 相手にすんな。

カルド うん。

サザイホ おや？

アガタ 続きやろ、インゴインゴ。

カルド うん。

アガタ さっきの続きでいいやろ。

カルド うん。

と、兄弟、静かにインゴインゴの続きを始める。

サザイホ なんだー、仲直りしたんだねえ。

兄弟、無視して続ける。

サザイホ おじさんのおかげだよ、仲直りできたの、ね。おじさん、いい事したな。

兄弟は、カードに集中し、わざと大きく「インゴインゴ」とか言ってる。

2人のカードゲームは再び白熱。

白熱しながら、晩飯も食う。

そこに母親のキモエがやってくる。

キモエ ちよつと！あんたら何しよんね！

アガタ ……。

カルド ……晩御飯を。

キモエ (2人を叩きながら) 行儀が悪いだから、ちよつとやめんね、どつちかにし。やないで、晩御飯だけにしなさい。

アガタ はい。

カルド はい。

キモエ あんたら何歳なんね、いい歳して、子どもみたいだから。

サザイホ まあ、家柄が悪いつちゆう事やないですかねえ。

キモエ うるさい。あんた関係ないでしょ。

サザイホ キモエさん。

キモエ うるさい。気持ちが悪い。

サザイホ (兄弟に) お母さんまで口が悪いね。

キモエ ほら、さつさ食べて。アガタは礼拝の準備。カルドは大砲の整備やろ。

アガタ はい。
カルド はい。

と、兄弟は急いで残りの食事を食べ始める。

サザイホ 奥さん。

キモエ …。

サザイホ キモエさん。

キモエ …はい。

サザイホ 海ガエルの味噌煮、抜群に美味しかったつす。肉がぶつちぶちでもう…。

キモエ どうも。

サザイホ ただー、ちよつと量が少ないんじゃないですかねえ、あれ。

キモエ サザイホさんの健康の事を思つて。

サザイホ あー、なるほど。お気づかい有難うございます。

キモエ いえ。

サザイホ でも、お腹空いたなあ。

キモエ へー。

サザイホ …息子さんたち、司祭と軍人にするんだね。

キモエ まあ、はい。

サザイホ 低所得の家庭に生まれると、そういう運命なんですかねえ。お金ある人は、普通に勉強して、大学行かせて、そこそこの所で働けるもんねえ。

キモエ ええ、お金ないんで、食事も充分に出せないですよすみません。

サザイホ でも、わたしの食事代は…軍の方から…そこそこ貰ってるんですよえ？

キモエ ええ、頂いた分くらい…の食事を出しておりますが。

サザイホ そうですよねえ。

キモエ (兄弟に) 早くしなさいよ。食べ終わったら片付けて。

アガタ はい。

キモエ 早よせな、お父さん帰って来るけね。

カルド はい。

キモエ、去る。

兄弟は、無言で食べる。

サザイホ アガタくんさあ。

アガタ …。

サザイホ 神様つてね、本当は居らんのかなよ。

アガタ 居ますよ。

サザイホ いやいや、居ないんだつて。最新の科学によるとね…。

アガタ 神は、神を信じる者の心に宿るのです。

サザイホ …とかもつともらしい事を言うんだよなシューキョーの人は。な、カルドくん。

カルド は？

サザイホ カルドくんは神様なんか信じてないから軍人になるんだよな。

カルド 神は信じてますよ。軍人になるけど。

サザイホ えー、それオカシイんじゃない？神はさ、「人を殺すなかれ」つて言うつてんでしょ？

アガタ 我々に敵意を持った邪教徒は滅ぼさざるを得ないであろう、とアドイツ神は明確に述べておられます。

カルド 戦いは我々の義務なんです。

サザイホ じゃあ俺も殺されるのかな？アドイツの神を信じちゃいないよ。

アガタ 我々に敵意を持ってなければ、大丈夫ですよ。

サザイホ ふーん(床に落ちたインゴインゴのカードを見て) それ、結局、どっち

が勝ったの？

カルド はあ？

サザイホ インゴインゴ、引き分け？

アガタ ゲームを放棄したのは、カルドなんで。

カルド は？

アガタ なん？

カルド 放棄したらんやん。

アガタ お前、俺がずるしたとかいちゃもん付けて途中でやめたらうが。

カルド やめたの兄ちゃんやん。

サザイホ まあまあまあまあ、どっちでもいいやん。

カルド よくない。

サザイホ ただのカードゲームやろ。

アガタ これ、賭けやから。

サザイホ 賭け？

カルド どっちが海に行くか。

サザイホ 海？何しに行くん？

アガタ 「五つ葉クルマソウ」を採りに。

サザイホ 五つ葉クルマソウ！何かお祝い？

カルド 明日、父さんの誕生日なんで。そのお祝いに。

アガタ プレゼントで。

サザイホ 親孝行しようとしてんじやん。

アガタ まあ。

サザイホ でもー、五つ葉のクルマソウを手に入れたって、今さら幸運は舞い込ん
で来んやろ。

カルド 大きなお世話や。

サザイホ で、何で二人で行かないの、海。

アガタ・カルド ……。

アガタ こいつが行きたくないとか言うんで。

サザイホ 何それ。

カルド 言ったらんやろ！

アガタ 言ったらんやろーも！

カルド またそんな嘘つくやんか！

アガタ お前が「行かん」とか言うだけ、そんなら勝負してどっちが行くか決め
ようってなったんやないか！

カルド 言つてない言つてない言つてない。

アガタ 言つた言つた言つた。

アガタ 言つた言つた言つた。

と、母親が現れて。

キモエ うるっさい！夜中になん騒ぎよるんね！

アガタ あ。

カルド (キモエに) 兄ちゃんがズルした。

アガタ しとらんて。

キモエ わかったわかった、うん、兄ちゃんはズルイけね、仕方無いわ。

アガタ しとらんて！

キモエ いいから。

カルド 兄ちゃんがズルイち、母さんも言いよるやん。

アガタ おまえ…。

キモエ 明日は父さんの誕生日やし、今日はもうそこら辺にしとかんね。

カルド 兄ちゃんがズルイち、母さんも言いよるやんねて。

アガタ やめろ。

カルド いっつもそうやん。兄ちゃんズルばかりして、年上やからっていつ

も僕ばっかり服従させられて！そんな卑怯や。ズルイでしかも卑怯や。
キモエ
カルド！

アガタ
お前、これゲームやんか、勝負やんか、自分が思い通りにならんってデキトーにいちやもんつけて自分の思い通りにしようって、そういうお前の方が卑怯やわ。いっつも年上の俺の方が悪もんにさせられてから。おお？

カルド
(カードをぶちまけて) こんなん「無し」や！

アガタ
お前、何しよるんか！

カルド
ドドンコ隠しやがって。

アガタ
お前、見たんかちゃ！

カルド
見たもん！

アガタ
嘘つけ！お前、見とらんのやろうが！見とらんけ、そんなぶちまけるんやろうが。

カルド
そんな見らんでも分かるわ！

アガタ
嘘つき！

カルド
ズル兄き！

アガタ
なんちやきさーん！(と、食って掛かる)

カルド
ギャー！

キモエ
やめんね！こら！静かにせんね！

アガタ
(手は緩めず) はーい。

キモエ
近所迷惑や(と、ほどこうとするが)。

アガタ
お前が叫ぶげぞ。

カルド
兄ちゃんが暴力ふるうげやん。

アガタ
お前がズルとか言うげやないか(と、再び掴み掛かる)。

カルド
ポーリヨクハンターイ！

アガタ
うるさい！

カルド
暴力反対暴力反対！

アガタ
うるさいうるさい！

カルド
ギャー！

アガタ
あー！痛い！痛い！

と、アガタが頭を押さえジタバタする。

カルド
母さーん！兄ちゃんが兄ちゃんのバランスが…。

キモエ
アガタ、アガタ！しっかりせんね！

アガタ
慈悲ふかく、慈悲あまねき神、アドイップの御名において…。

カルド
アドイップ聖典…？

キモエ
カルド、お医者さん呼んで来なさい。

カルド
ダイノーア先生？

キモエ
ダイノーア先生。

カルド
わかった。

カルド、部屋を一步出て、アナログな仕組みの電話を手にする。
電話をしているカルドの顔は見える。

アガタ
(かなり興奮気味に) 讚えあれアドイップ 万世の神 慈悲ふかく慈悲あまねき御神 審きの日の主宰者 汝をこそ我らは崇めまつる 汝にこそ救いを求めまつる

カルド
(電話に) ええだからダイノーア先生です。急いでいるんです。え？
ああはい、テダ家のカルドです。

アガタ
願わくは我らを導いて 正しき道を辿らしめ給え 汝の御怒りをかう人々や 踏み迷う人々の道ではなく 汝の教えを乞う人々の道を歩ましめ給え…。

カルド
(母に) 大丈夫みたい。

キモエ
アガタ、大丈夫よ、落ち着きなさい。先生がもうすぐ来るから。

アガタ (ちよつとずつ落ち着きながら) そう? 先生が来る? 先生は医学の人だ

よ? 医学は人を救える? アドイップの神は人を救うよ、神は僕らを裏切ったりしないんだ。

カルド そうです、兄のアガタが、はい。

アガタ カルドは嘘をつくよ、そして罪を人に擦り付けるんだ。…そんな事をしていたらカルドは神の国へ行けなくなるんだ。

キモエ そうやねそうやね、悪いのはカルドやね。

アガタ、気絶する。

カルド (アガタを見つつ) だから! 先生じゃないと駄目なんですって!

サザイホ 大変だあ。

キモエ あんたもちよつとは手伝いなさいよ。

サザイホ え、出ていいの?

キモエ いいから、ほら、手伝って。

サザイホ あー、はいはい。

カルド え? いいんですか? あ、外から、はい、直接。ああ連絡が取れるんですね。

キモエ ほら、ちよつと(アガタの) 頭持つて。

サザイホ はいはい。…またバランス狂ったんか。

キモエ (頭の下に枕になるような物を置きながら) うん、たぶん。

サザイホ どうせヤブ医者が言ってるでまかせだあね。

キモエ ダイノア先生。

カルド ダイノア先生です。そうです。だいたい…10分? もうちよつと早くらい?

サザイホ ヤブだよヤブ、バランスがどうのこうのって適当な診察で随分巻き上げられとるじゃないの。

キモエ アガタは原因不明の難病なんです。

サザイホ 原因は分つとるやろ、原因はあんたら夫婦やろ。

キモエ …違います。適当な事言わんでください。

カルド じゃあ、至急お願いします。待ってます(じんわりと受話器を置く)。

サザイホ 原因不明やからって適当な診察するのもしかと思うわ。

カルド、部屋に入って来て。

カルド ダイノア先生、すぐ来るって。

キモエ ありがと。

サザイホ やぶやぶー。

カルド やめてください。

サザイホ はいはい。

カルド 兄ちゃん大丈夫?

キモエ 今、気が失ってる。

カルド そつか…、もう一生治らんのかなあ。

キモエ 治るよ。

カルド うん。

キモエ カルド、アドイップの神様に祈つとき。

カルド うん、はい。

サザイホ 祈って治るんやったら医者は要らんわなー。

カルド ……。

キモエ 気にせんで、祈りなさい。

と、アガタが突然立ち上がり、一人、大きな声で語り始める。

アガタ この後、私は帰ってきて倒れたタナビテの家屋を建て直す。すなわち廃

虚と化した家屋を建て直し、それを元どおりにする。それは残った人々、すなわち私の名で呼ばれる異邦人がみな、アドイップの神を求めめるようになる為である。大昔からこれらの事を知らせておられる神がこう言われる……（また、倒れる）。

と、遠くからサイレンが聞こえてくる。

サザイホ また、ゴミが漂着したんかな。

キモエ ゴミの船。

カルド ゴミの船が、岸壁に？

サザイホ たぶん。

彼らの不安を増長するようにサイレンが大きく響く。

② 世界のバランス

来訪者を知らせるブザー音が鳴る。

カルド はい！

と、カルドは玄関方向へ去る。

すぐさま、ダイノア医師が足早にやって来る。

ダイノア お邪魔しますよー。

カルド よろしくお願ひします！

キモエ 先生、お願ひします（と、倒れたアガタ前まで）。

ダイノア アガタくん、またバランスが崩れちゃったんだって？

キモエ はい…。

ダイノア どうせまた興奮させちゃったんでしょう。

キモエ はい、その…。

ダイノア 駄目じゃないですかー。ご主人はどちらに？

キモエ 亡命移民局に呼ばれてまして。

ダイノア 移民局かあ、あー、港にゴミが着いたとか言いよったもんなー。後でちゃんとご主人にも報告しといてくださいよー。

キモエ はい。

カルド 先生、やつばゴミの船が来たん？

ダイノア うん、港の方が騒いどったもんね。

カルド ユナゴルの亡命者やろうか？

ダイノア たぶんね、うん、最近多いからねえ。

カルド 凄いい、いつばい来たんやろうか？

ダイノア さあ、どうかなえ、えー、どれどれ（とアガタを診る）。

カルド ああ、僕が悪いんです。

ダイノア ん？

カルド 僕が兄ちゃんを興奮させちゃって。

キモエ そうなんですよこの子が。

ダイノア また喧嘩？

カルド はい…。

キモエ ええ…。

カルド あ、でも、喧嘩の原因は兄ちゃんなんです、僕は悪くないんです。

ダイノア ん？僕が悪いんですって言わなかったっけ？

カルド 喧嘩の原因は兄ちゃんが悪くて、兄ちゃんを興奮させちゃ駄目だった事を忘れて喧嘩をしちゃったのは僕が悪かったと思ってます。

ダイノア あー、ま、どつちがどう悪くてもいいんやけどね、こう何度も何度も崩れてるとね、崩れ癖が出来ちゃうからね、気を付けないと。

カルド はい。

ダイノア (アガタの頭に乗っている妙なマシンを取り外して) あー、ほら、ずれちやってるわ。今度は、ほら、右側に傾いちゃったまま動かんことなるとるもんね。

サザイホ あの、それ、前から気になつとつただけだね。

ダイノア 何だよこの寄生虫野郎が。

サザイホ あんたも口が悪いね。

ダイノア 悪かないよ、寄生虫だから寄生虫つってんだろが。

サザイホ ちつ、俺はね、前からその妙チクリンな機械がね、どーも信じられなくてね。

ダイノア えー、信じられないって何？

キモエ このバランス調整機「バラトリーナ」がイカサマだとかペテンだとか言うのかいこの寄生虫めが。

サザイホ イカサマとかペテンとか、まだそこまで言っていないじゃない。

キモエ ダイノア先生オリジナルな、最新最高の技術でもって作り上げられたこのバラトリーナがイカサマとかペテンだと言うんだ？

サザイホ んー、キモエさん、あなた騙されてるんじゃないかなあ？

キモエ 騙されていないですよ。

ダイノア 今、この国ではね、右脳と左脳のバランスがおかしくなっちゃってる若者が急増してるんだよね。

サザイホ 「バランスがどうのこうの」つつつてる辺りがもう嘘っぽいんだよ。

ダイノア あんたは新聞も読んないしニュースも見聞きしてないから知らないんだらうけど、そういうことになって大変なのこの国は。

サザイホ それはそれは大変な事ですな。

ダイノア お前、馬鹿にしてんのか？

サザイホ いやもう、心から大変だなあつて。

キモエ サザイホさん、この病気はね、事実「在る」病気なんです。

サザイホ ああ、そうですか。

カルド 信じとらんよコイツ。

サザイホ バランスって何ですか？見た目には何も変つとらせんじやないですか。

ダイノア 人間の精神はね、微妙なバランスで保たれているんです。ちょうどヤジロペイの様なモノを思い浮かべてください。ゆらゆらゆらゆらコッチに傾いたりアッチに傾いたり、常に動いている事でバランスを取っているんです。それがですよ、何らかの拍子にゆらゆらがピタッと動かなくなつたらどうなります？

サザイホ バランスが、取れなくなる…のかな。

ダイノア 取れなくなるんです。それで、精神のバランスが取れなくなると？

サザイホ 狂っちゃう？

ダイノア ほーら、これ(アガタを指す)。

サザイホ あ。

ダイノア そんな時にこれ(バラトリーナを指す)。

サザイホ え？

ダイノア 精神の傾きを常に監視しながら、アッチにゆらゆらコッチにゆらゆら動いてるんです。傾いたまま止まっちゃつてもそれを補正してくれるんです。補つて正してくれるんです。

サザイホ (アガタを見て) 補えて無いじゃない。

ダイノア 程度の問題です。興奮状態が激しいといくらこのバラトリーナでも補いきれないんです。(トマシンを開いて覗いて) あー、ほら詰まっちゃつてるね。

サザイホ 詰まってる？

ダイノア コレ取り替えないと駄目だなー。ね、奥さん、これカートリッジを交換しなきゃ駄目ですな。

サザイホ えー？

キモエ カートリッジ式？

サザイホ

ダイノア

サザイホ

キモエ

サザイホ

ダイノア 便利でしょ。

キモエ またですか？もう今月2回目ですよ？

ダイノア だってしょうがないでしょ。お宅のカルドくんがお兄さんを興奮させたから、こんなことになっちゃってますから。

カルド ゴメンなさい…。

ダイノア カートリッジ、1000ギニーですけど、大丈夫ですか？

キモエ あ…何とか、あの、来月払いてもいいですか？

ダイノア ええ大丈夫ですよ。

サザイホ 悪い商売や。

ダイノア 失礼だな君は！

サザイホ ゴメンなさい、口からつい本音が。

ダイノア カートリッジ交換しますよ。

キモエ はい、お願いします。

ダイノア (交換、そしてアガタに装着しながら) 奥さん、この寄生虫はいつまでココに置いておくつもりなんですか？

キモエ 置いておきたくはないんですけど、軍に頼まれてるんで…。

ダイノア 厄介者を押し付けられとるんですな。(サザイホに) あんたユナゴルのスパイだったんだって？

サザイホ 勝手な事言わんでくださいペテン師さん。

ダイノア 街の者は皆言ってますよ寄生虫さん。

アガタが目覚めます。

ダイノア おっ。

アガタ あれ？

キモエ アガタ？

カルド 兄ちゃん、大丈夫？

アガタ うん…。

サザイホ お前、どこ行つとつたんか。

アガタ タナビテの市街地に…。

皆 え？

サザイホ 何言ってるの？

アガタ ここ、タナビテだよ？

カルド 何言ってるんだよ、タナビテだよ。僕らの家でしょ。

アガタ あ、そっか…。

キモエ 先生、大丈夫なんでしょうか？

ダイノア 気を失っている間に夢でも見たんでしょう。今はまだ現実との狭間をさま迷っているんですな。

アガタ 皆ね、死んだ。

皆 え？

キモエ ちよつと、アガタ…。

アガタ タナビテの住人もユナゴルの住人も全員…。

ダイノア アガタくん、それは夢だよ。

アガタ ダイノア先生…。

サザイホ 今は、戦争はしてないんだよ。ちよつと小競り合いしとるだけだろ。

アガタ ああ…。

カルド 正夢かもよ。

キモエ あんた何言ってるの。

アガタ 皆、生きてるね。

皆 うん。

アガタ いやー、心配したよ。

カルド コツチの方が心配したよ！

ダイノア アガタくん、目は覚めたかい？

アガタ あ、はい。

ダイノア (母に) もう大丈夫だと思います。

キモエ ありがとうございます。

ダイノア くれぐれも興奮させ過ぎないように。

キモエ・カルド はい。

ダイノア 来月には…お願いしますね。

キモエ はい。

ダイノア じゃあ私はココで失礼します。

ダイノア去る。

サザイホ 人の弱みにつけ込んだ悪質な詐欺やなあれは。

キモエ 事実こうして治ってんだから。

サザイホ そこが騙されとるんやつて。

キモエ じゃああんた治せんのか？ぎやーぎやー言うだけで、何も出来んやろ？タダ飯食うんなら、少しは何かの役に立ったら？

サザイホ じゃあせめて神に祈ろう。アディップの神に。

キモエ 何を今更。

アガタ この後、私は帰ってきて倒れたタナビテの家屋を建て直す。すなわち廃虚と化した家屋を建て直し、それを元どおりにする。それは残った人々、すなわち私の名で呼ばれる異邦人がみな、アディップの神を求めるようになる為である。大昔からこれらの事を知らせておられる神がこう言われる……。

再びサイレンが大きく響く。

さらに、半鐘も鳴り響き、皆に緊張が走る。

と、一家の父、ニエフが帰宅。

キモエ あなた。

カルド お父さん。

アガタ ……。

ニエフ 大変な事になった。

サザイホ え、どしたの？

キモエ 何なの？

ニエフ ゴメンな、俺がこんなので。

③ ゴミの人たち

さらに深夜、家族が寝静まってる中、ドヤドヤと人がやって来る。

団地長スクロブがユナゴルからの亡命者(ゲティ&レイルー)を連れて来たのだ。

スクロブ さあ、どうぞどうぞ、今日からココがあなたたちの家です。住処です。

ゲティ え、いいんすか？

スクロブ もちろんです。こちらがリビング的なエリアで、こちらが…たぶん、あなた達の部屋になります。

レイルー 本当にいいんですか？

スクロブ ええ、我がタナビテは、ユナゴルからの亡命者を歓迎しているんです。

ゲティ おあー、本当だったんだ、タナビテに来たら、家があるって本当だったんだ。

レイルー (椅子に座ってみて) すこい！椅子よ！

スクロブ ああはい、椅子です。

ゲティ テーブルがある、椅子に座れる、これが自由なんだよ！

レイルー こんなこと、ユナゴルじゃ考えられなかった。

スクロブ 椅子くらいあるでしょ。

ゲティ レイルー、歌えよ。
スクロブ え？

レイルーが歌う。

♪戦い歩み 生きる者たちよ

その足音は今も鳴り響いて

流れ激しく 飲み込まれながら

モドニナナ海峡の ゴミたちよ

聞こえているか 対岸のいのち

見えているか 生き抜いた我ら

すり抜けて行く明日 掴み取る自由

途中からゲティも加わる。

と、眠っていたテダ家の面々が集まってくる。

ニエフ 何なに？何が始まつちやつてんの？

キモエ 何時だと思ってるのよー。

スクロブ 真夜中にすみませんな、テダ家の皆さん。

ニエフ スクロブ団地長…。

スクロブ お願ひしてた例のあれ、ね、いやね、もう連れて行くトコ無くって、明日まで待てなくて連れてきちゃったんだけどね、いいよね？

ニエフ まあ、うちは、はい、そういう事になってますから、はい。

スクロブ 奥さん、すみませんね。

キモエ いえ。これも仕事ですから。

ゲティ あのお世話になります。ゲティと申します。こっちは妹のレイルーです。

レイルー 兄妹共々よろしくお願ひします。

ゲティ ユナゴルの北部、マトイシ郡の出身です。

ニエフ マトイシって言ったら、結構寒いんじゃないですか？

ゲティ ええ、そうなんです。冬はほんと厳しくって。

レイルー 海峡を渡って、タナビテに来たら、暖かくって。

ニエフ 大したもてなしも出来ませんが、ゆっくりしてってください。

レイルー はい。

ゲティ ぐはっ。

と、ゲティが倒れる。

レイルー ゲティ？

スクロブ どうした？おい？

ゲティ 昨夜から、なにも、食べてなくて…。

レイルー そう言えば…。

スクロブ 飯だ飯、何か食べさせてやってくれ。

キモエ はいはい。

ニエフ おい。

キモエ 余りもんしか無いですよ。

と、言いながらキモエ、去る。

スクロブ 食えれば、何でもいい。早く。

ニエフ 晩御飯の残りしか無いですけど、そんなんでいいですかねえ。

レイルー いえ、ほんともう、食べ物であれば何だって。

ゲティ ありがとうございます…。

ニエフ まあ、どうぞどうぞ（と、椅子をすすめながら）船旅だったんでしょ？

レイルー はい。夜中に出て、朝方タナビテに着いて。

ゲティ そこから今まで、検査だとか審査だとか健康診断だとかそんなのばっかりで。

スクロブ 食事の時間が無かったからね、ゴメンなさいね。

と、キモエが皿に盛った食事を持ってくる。

ご飯に何やらおかずが乗っただけの、乱雑なもの。

キモエ どうぞー、残りもんですけどね。

レイルー わあー。

ゲティ ありがとうございます。

と、2人、スプーンを手に取り、すぐさま食らいつく。
アガタとカルドが騒ぎを聞き、何事かと覗き見ている。

キモエ ユナゴルの方のお口に合うかどうか、自信ないですけど。

ゲティ いや、これ、美味いっすよ。

レイルー 美味しいです。

ゲティ ふかふかしてるね。

レイルー うん、ぶちぶちしてて。

ゲティ 塩加減がまた…。

レイルー 香草？この食欲をそそる香りがまた…。

2人、喋りながらも、くちやくちや食う。

サザイホがその様子を覗き見て、ニヤニヤしている。

ゲティ これ、肉ですよ。

キモエ はい。

レイルー 久しぶりのお肉ちゃんー。

スクロブ ユナゴルじゃあ、なかなか肉に有り付けられないんですよ？

ゲティ そうなんすよー。

レイルー 上の方の、お偉いさん達は食べてるらしんですけどね。

ニエフ もう、どんどん食べてってくださいね。

ゲティ・レイルー はい！

と、ガツガツ食う。

レイルー あ、これ、この肉、これ何の肉ですか？

キモエ あー、何だと思います？

レイルー え、牛ですか？

ゲティ 馬鹿、これはなー、鳥だよ鳥。

レイルー え、分るんだ？

ゲティ ほら小骨。この大きさの骨はね、鳥なんだよ鳥、小鳥ちゃん…くらいだな。

レイルー このプチプチしたお肉は小鳥ちゃんなのねー。

キモエ いやー、それは…、鳥じゃないんですよ。

ゲティ え？じゃあ豚？子豚ちゃん？

ニエフ 子豚ちゃんでもない。

レイルー こ…。

スクロブ 子牛ちゃんでも、ないよね。

ゲティ ですよ、どんなに小さい牛でもこの小骨は小さ過ぎるもんね。

サザイホ それ、カエルなんですよ。

キモエ んあ！

ゲティ ん？

レイルー え？

ゲティ カエルって…？

レイルー その…。

ゲティ ゲゴゴ言ってる…。

キモエ はい、まあ、ゲゴゴ言ってる。

レイルー 池とかに居る…？

キモエ いえ、海に…。

ゲティ うはっ…。

レイルー それは…もしかして…モドニナナ海峡に生息している。

テダ家の皆、顔を見合わせて。

キモエ はい、今晚のおかずは…「モドニナナ海ガエルの味噌煮」でございます。

アガタ 美味いっすよー。

カルド 頬っぺた落ちますよ。

ゲティとレイルーは、じたばたと「吐く場所」を探す。
やがて…。

ゲティ・レイルー おええー、うヴえー（思いつきり吐く）。

アガタ うわっ。

カルド たはー。

ゲティ 何食わせとるんじや！

レイルー うおえ。

ゲティ 人間のする事じゃねえ。

レイルー けだもの。

サザイホ あはは。

カルド あ、そうかあ、ユナゴルの人は海ガエルを食べちゃいけなかったんだあ。

ゲティ わざとカエル食べさせやがったな。

キモエ だって本当に晩の残りだったんだもん。

アガタ 普段食べてんだもん。

レイルー 食べれんって分かって出したんやろ。

ゲティ 俺らがカエルを食べれんって分かっとなって出したんやろ？

サザイホ あー、ね。

ニエフ 洗札やから。

ゲティ はあ？

ニエフ （海ガエルの味噌煮を手に）タナビテの洗札。

サザイホ 海ガエルが食べれんのやったら、タナビテじゃ生きて行けんもんね。

カルド ふっーに食卓にね。

アガタ 出てくるんやもん。

サザイホ うん、これホントだよ。自分も最初食べれんかったけど、意外とすぐ慣れたからね。

レイルー あんたユナゴルの人？

サザイホ 元々は。

ゲティ あんた罰が当たるぞ！

レイルー 裏切り者！

ゲティ 神への冒瀆だぞ！

サザイホ 裏切り者って、あーた、コッチに来たんやったら、コッチの流儀に従わんと。

ゲティ …。

レイルー そう、だけど。

スクロブ 嫌なら、国に帰ればいい

ゲティ …帰ったら、銃殺だ。

スクロブ でしょうね。

サザイホ まあまあ、あんたんとこの神様も、こちらのタナビテの神様も、元をた
じれば同じ神様なんだから、ね、アガタ君そうだよな？

アガタ 元を迎えば、まあ、そうですね。

カルド 守り神が、それぞれ違う訳でしょう。

サザイホ そうね。

ゲティ モドニナ海ガエルは、我らユナゴルの守り神だ。捕獲して食べることは許されない。

カルド 我らタナビテの守り神は、ハチマコウイルカだ。捕獲して食べることは許されない。

ゲティ ハチマコウイルカ、ちよー美味いんだぜ！

スクロブ 口を慎め。

サザイホ ココはタナビテだよ。

ゲティ 野蛮人。

レイルー ちよつと。

ゲティ 常識的に考えられない。

キモエ え、常識って何？

ニエフ あんたらの常識は、コッチじゃ非常識だよ。

ゲティ 野蛮人！

カルド お前らだつてイルカ食うんだろ？そつちんがよつぽど野蛮だろうが。

スクロブ まあまあまあ。カルド君、まあそう興奮しなさんな。なあ亡命者諸君、
君たちはこのタナビテに懂れてやって来た。そうだね？

ゲティ …まあ。

レイルー はい。

スクロブ だったらこの国の常識を非難してはいけない。ココで生きて行くつもり
なら、分かりますね？

ゲティ …はい。

レイルー わかります。

スクロブ この家族も、ちよつとした…いたずら心で、ね。

ゲティ 分かつとつて食べたのが許せんち思うんですよ。

スクロブ なるほど。

ゲティ 逆やつたら、どうなんつち話でしょう。あんたらが、こつそりイルカ食
わされとつたら、どう思うか考えてみるちゃ。

キモエ 今日のはまたま海ガエルの料理やつたんです。

ニエフ それに、海ガエルは我々にとつちやあ普通の食事だ。あんたらにも慣れ
てもらわんといけん。

アガタ すみませんが、慣れてください。

ゲティ 慣れるとか。

レイルー 無理です、そんなすぐに。

サザイホ いやいやこれがね、考え方ひとつで意外やコロツと慣れてしまうんよ。

カルド 嫌なら、ユナゴルに帰ってください。

ゲティ だから帰れねえんだよ。

レイルー やめてつて。

カルド あんまりゴチャゴチャ言つてると、ユナゴルに向けて一発ぶちかますぞ
こら。

ゲティ はあ？

カルド ウチに設置した大砲があるんだよ、いつだつてぶちかましちやるわ。

ニエフ おい！

スクロブ カルド君！大砲はそんな軽々しく撃つもんじゃやない。

カルド すみません。

スクロブ だな？ニエフ君。

ニエフ あ、はい。

レイルー 家から突き出とつたのあれ、大砲なんや。

カルド 常に、ユナゴルに照準を合わせている。

ゲティ あんな、細つい、へなちよこ大砲でやられるもんか。

スクロブ 我がタナビテには、こういった家々に大砲が備え付けられてるんだよ。そして、いざとなったら、家々から一斉に砲撃が開始される。彼がこの家の砲撃主、テダ・ニエフだ。

ニエフ、誇らしげに敬礼。
それをカルドが誇らしく見つめる。

サザイホ でももう20年も動かしとらんのでしょ？

ニエフ だから何だ。

サザイホ 果たして動くもんかね。

カルド 動きますよ。

サザイホ (ニヤニヤしながら) あ、そう。ふうん。

カルド いったって、撃つ準備はできている。

カルドの強い語氣に、一瞬、空気が止まる。

アガタ そういう覚悟は、ありますよ。って意味で。

スクロブ いや、夜遅くにすまなかったね。そろそろ帰るとするよ。テダ家の皆、後は頼んだ。(亡命者の2人に) 仲良くやってよね。でなきや、もつと自由のきかない所に入ってもらおうことになっちゃうよー。

ゲティ はい。

レイルー 分かりました。

キモエ (アガタとカルドに) ほら、あんた達、もう寝なさい。

アガタ うん。

カルド うん。

ニエフ じゃあ、お父さんも寝よう。うん、寝よう。(亡命者の2人に) まあ、ゆっくり寝て。ね。

ゲティ はい。

レイルー ありがとうございます。

ニエフ、アガタとカルドを連れて、去る。

キモエ もう、そっちの部屋、好きに使っていいから。ベッドも2つあるから。あ、ご兄妹さんよね？

ゲティ ああ、はい。

キモエ トイレは、入ってきたそっちにあるから。それと、勝手に家の中をうろろしない。そういうルールになってるから。じゃ、おやすみなさい。

レイルー はい。

ゲティ おやすみ、なさい。

キモエ、去る。

サザイホ この家、いろいろ訳ありなんだよね。

レイルー え、そうなんですか？

ゲティ ていうか、あなた何者なんですか？

サザイホ 俺もいろいろと訳ありなんだよ…。

と、部屋に去ろうとする。

ゲティ ちょ、ちよつと。

サザイホ もう眠いから。詳しくは、おいおいね。

ゲティ あ、あ、1つだけ。

サザイホ なにー？

ゲティ この家の大砲って、生きてんですか？

サザイホ 死んでるに決まってるあ。

レイルー そうなんですか？

サザイホ 戦争が終わって何年経つ？にらみ合ったまま何年だ？

ゲティ 20年、ですか？

サザイホ こんな旧式の20センチ砲、動いたとしても大した働きはせんよ。

レイルー 役立たず。

ゲティ 無用の長物。

サザイホ そう、とつくに死んでんだよ。

④ 海峡を挟んだ2国

一夜明けて。

レイルーが歌う「モドニナナの流れ」

(注：ユナゴル、タナビテ、どちらでも歌われている歌)

♪巻き込まれ 流されて

沈んでく その海底(うみぞこ)に

浮き上がる

息をする

辿り着いたる その場所は

いつか見た わたしの家族

波のよう 連れてってよ

モドニナナ 我らが海か 我らが空か

モドニナナ わたしのこころ 渦巻いて

物悲しく歌うレイルーに反して、ゲティが熟睡を経て爽快な感じで登場。

ゲティ 朝！

レイルー うん、朝。

ゲティ 朝って何だ？

レイルー え、え、何？えーっと、分かんない。

ゲティ 朝ってのは「夜が明ける」って事だ！

レイルー ああうん、夜が明けてるね。

ゲティ まさに俺たちの事だ！

レイルー 意味わかんないんだけど。

ゲティ ーん、今日はどうだ？昨日までの俺たちと比べて。

レイルー うん、生きてる。昨日までは死んでるみたいだった。

と、サザイホが現れて。

サザイホ もう昼ですよ朝じゃなくって。

ゲティ あ、おはよございまーす。

レイルー おはようございます。

サザイホ おはよう、レイルー…さんだよな？随分キレイになったんやない？

レイルー ありがとうございます。

ゲティ やっぱねえ、自由という名の空気が僕らを輝かせとるんだねえ。

レイルー え？

サザイホ いや、風呂に入ったからでしょ、久しぶりに。

ゲティ いやあ、コッチの風呂は贅沢だね。

サザイホ あ、そうだった？

ゲティ お湯がこう、いっぱいいっぱいになって、それをザザーってこぼしながら入るとかも贅沢っしょ！

レイルー ちびちびお湯を引つ掛けてるユナゴルの行水とは、ね。

サザイホ レイルーちゃん、ザザーってやった？

レイルー ……はい。

ゲティ 気持ち良かったよな！

レイルー うん。

ゲティ 俺の言った通り、タナビテは樂園やったろ？

レイルー うん…。

ゲティ 何？どしたの？

レイルー ココに…ずっと居るつもり？

ゲティ え、いや、居るつもり…やけど、え、何？

レイルー ……そうだよ。

ゲティ え、え、え、亡命っちそういう事やる。俺ら、国を捨てたんやる。

レイルー 捨てた、つもり…だったけど、自信無くなってきた。

ゲティ えー、何だよ？

レイルー 何か、合わない、みたい。

ゲティ そらすぐには合わんよー、それはそうよ。近い隣の国だからって、やっ

ばここは外国なんやもん。

レイルー そうだけだよ。

ゲティ そのうち慣れるって。

レイルー あたしカエルなんて絶対に食べれない。

ゲティ 俺も食べれんけどさ、そのうち慣れるんやないの？

レイルー そうやってカエルを平気で食べる人間になりたくない。

ゲティ ちよつとお。

レイルー コツチに来て分かった。あたし、ユナゴルの人間だ。ユナゴルの血が流れてる。本能的に…、タナビテは、違う気がする。

サザイホ 一緒一緒。こんなに近いんやもん。海峡一本挟んどるだけやろー。

ゲティ ちよつとあなた口挟まんでください。

レイルー 愛国心、なのかも知れない。

サザイホ あはは。

ゲティ 何言ってるの？あんなに嫌いだったんだろ？ユナゴルが。

レイルー ユナゴル政府はね。嫌いなのは政府。でも、ユナゴルという国は好き。

ゲティ そりゃ俺だってそうだよ。でもあんな政府のもとでは生きて行けないって。

レイルー 生きて行けないって思った。思ってた。

ゲティ 自由があるでしょ、ココには。

レイルー そうだけど…、自由ってそんなに必要かな。

ゲティ はあ？…自由を求めて！ってお前が言ったんやろ？

レイルー でもね、人はね、ある程度「枠」に押し込められて生きる方が生きやすいんだよ。

ゲティ あ？枠？

レイルー うん、枠。あれをしちやいけません、これをしちやいけませんって。

ゲティ 政府の作った枠だろ。

レイルー ここまでしか行けません、海岸に来て海には入るな、海に浮かぶ船を見るな山を見る、人のことを詮索するな、秘密を持つな、集会をするな、週に1回は礼拝に來なさい、毎日3回祈りなさい、あれを食べるなこれを食べ、良く噛んで食べ、にこやかに食べ、感謝しながら食べ、25までに結婚しろ、28までに子供を作れ、35で家を建てろ、親を大切にしろ、

親より先に死ぬな、親の死に目には会え、乗り物にはなるべく乗らず歩

け、乗り物に乗ったら席は年寄に譲れ、人の物は取るな、もし取られたら取り返せ。

ゲティ だからそれが嫌だったんだらう？

レイルー うん、でもね、昨日の夜ね、窓から海を見てたらね、何だか恐くなって。

ゲティ 怖い？

レイルー うん、兄ちゃんはグーグー寝てて、あたし1人海を見てて、真っ暗な中に大きな船が行き来して、あたしの居るこの建物もそんなデッキカイト

に大きな船が行き来して、あたしの居るこの建物もそんなデッキカイト

に大きな船が行き来して、あたしの居るこの建物もそんなデッキカイト

に大きな船が行き来して、あたしの居るこの建物もそんなデッキカイト

に大きな船が行き来して、あたしの居るこの建物もそんなデッキカイト

に大きな船が行き来して、あたしの居るこの建物もそんなデッキカイト

に大きな船が行き来して、あたしの居るこの建物もそんなデッキカイト

に大きな船が行き来して、あたしの居るこの建物もそんなデッキカイト

に大きな船が行き来して、あたしの居るこの建物もそんなデッキカイト

に大きな船が行き来して、あたしの居るこの建物もそんなデッキカイト

に大きな船が行き来して、あたしの居るこの建物もそんなデッキカイト

そんな真つ暗な海を泳いでるんじゃないかって、そんな得体の知れない乗り物にあたし達は乗っかちやつてるんじゃないかって、いや、兄ちゃんはお阿呆みたいに寝てたから私は1人でそんな船に乗ってるんじゃないかって…。

ゲティ そんな船になんか乗ってやしないって。

レイルー そうして何時の間にか寝てて、朝が来て目が覚めたら、兄ちゃんは1人でもくもくと馬鹿のように何か食べてた。

ゲティ うんだってこれ美味しいんだもん、芋をね蒸してるだけなんだって、それでこの何とも言えない甘みがね…。

レイルー そういう一人ぼっちになる自由より、あれしちゃいけないこれしちゃいけないって枠を決められてる方が安心するんじゃないかなって。

ゲティ 俺あはもうあんな国に戻らんよ。父さんと母さんをあんな目に合わせた国だ。

レイルー あれは政府が。

ゲティ 一緒だよ。このまま何も変わらないんだったら、それが国だろうと政府だろうと一緒だ。

レイルー あたしたちがユナゴルを変えようよ。

ゲティ だから亡命したんだろ。外側から、隣の国から変えられるかも知れないって。

レイルー どうやって変えるの？

ゲティ 何か一発、どちらかが落とすか落とされるかしたら。

レイルー 何か一発って何？爆弾？ユナゴルをつぶすの？

ゲティ そう突き詰めて考えるなよ。

レイルー ユナゴルを傷つけたくない。

ゲティ 時には少しの傷も必要だよ。

レイルー ユナゴルが好きなんだよ。

ゲティ 分かるよ。

レイルー 理屈じゃない。

ゲティ 感傷的な愛国心は、身を滅ぼすぞ。

サザイホ あははは。

レイルー 何？

サザイホ 笑っちゃうね。

ゲティ コツチは真面目なんです。

サザイホ 国なんかね、本当は無いんだよ。そこに人が一人生きてるだけ。

ゲティ 意味わかんね。

サザイホ 分かんねえだろうなあ。

ゲティ ふざけやがって。

サザイホ お国の為に生きて、お国から何か見返りがあったためしは世界中どこにも無いんだよ。だから、あんた達の「亡命」って選択は素晴らしいと思うよ。国を捨てた訳だから。せつかく捨てたんだったら、もつと自分の欲望に生きてらどうなの？

レイルー 欲望？

サザイホ 今日と明日食べるご飯の事だけ考えてればいいの。カエルでも何でも食べればいいの。

ゲティ あの、あなた、何者なんですか？

サザイホ ココの住人ですよ。

レイルー この家族の…。

ゲティ 一員じゃないよねえ。

サザイホ 一員じゃないですねえ。住んでるんで、住人っちゃ住人なだけけど。

ゲティ えーっと。

レイルー サザイホ、さん、でしたっけ？

サザイホ はい。あ、それ。

ゲティ はい？

サザイホ そのお芋、それ美味しいでしょう。

ゲティ あ、はい。

サザイホ (それをつまみながら) いや実際ね、このウチの食いもんはね、結構いけるんですよ。

ゲティ あ、そうなんですか。

サザイホ 昨夜のカエルもほら、最初は美味しそうに食べてたでしょ。

ゲティ まあ。

サザイホ ね。

レイルー はい。

サザイホ ココの奥さん、キモエさんの味付けはね、抜群なんだよー。

ゲティ で、コチラのご家族さん…と、どういうご関係なんですか？

レイルー いわゆる居候、みたいな？

サザイホ あー、居候と言えば、まあ、そうですねえ。居候させてもらっておりますが…。それだけではない、微妙な…、家族と私との…絶妙なバランスの上に成り立っている…関係、というものがあるんですよ。

ゲティ 絶妙な。

レイルー バランス？

サザイホ ええ、私あちよつと訳ありでしょね。

ゲティ はい。

サザイホ わたくし、過去に秘密があるのです。

レイルー 過去に。

ゲティ 秘密が。

サザイホ ユナゴルとタナビテという分断された2国間、そしてその間に横たわるモドニナナ海峡に翻弄された、数奇な運命。

レイルー 数奇な運命？

ゲティ って…、どんな？

サザイホ それを話すにはまず、ここに住んでいる家族、テダ家の物語から始めなければなりません。

レイルー え、それは。

ゲティ 長いんですか？

サザイホ いえいえ、お二人も知っている二十年前のビダル島抗争での話ですよ。

ゲティ ビダル島に居たんですか？テダ家が？

サザイホ はい。ビダル島に住んでいたテダ家は、最前線となった海岸沿いに、一家で暮らしていたんです。

レイルー それで…。

サザイホ タナビテ軍の一兵卒であったニエフは、当然、ユナゴル軍と戦う使命にあつた。しかし彼は、銃撃やうめき声の中、長男アガタを連れて逃げた。

ゲティ 二男は？

サザイホ 二男カルドは母キモエと共に街へ買い物へ行ってたんです。前線から離れていたため、地獄を見ずに済んだ。

レイルー 長男アガタは…。

サザイホ 最前線で燃え盛る地獄を見た長男アガタは発狂。以来、脳みそのバランスがおかしくなっちゃった。

ゲティ あの、頭に乘せた変な機械が？

サザイホ あれでバランスを取ってるんです。

レイルー 父親は？

サザイホ 父ニエフは敵前逃亡の罪で軍の最下層位にまで格下げされ、ここ大砲団地43棟の大砲守となった。

ゲティ なるほどね、そういうことがね。

レイルー で、それで？

サザイホ それでって？

レイルー あなたの数奇な運命はどっから始まんの？

サザイホ 一方、街へ出ていた妻のキモエと次男カルドが、本当はどこに行っていたかと言うと！

ゲティ 街じゃ無いんですか？

レイルー どこに行ってたんです？

サザイホ 街である事に変わりはありませんが…、実は、このキモエは夫に重大な秘密を持って…。

と、そこに五つ葉クルマソウを取ってきたアガタ、カルドが帰ってくる。それぞれ、大きな葉っぱが5枚ついた植物を手に入れている。

サザイホ お帰りなさいい。

アガタ ただいま。

サザイホ 五つ葉クルマソウだねえ。仲良く2人で行ったんやねえ。

ゲティ クルマソウ？

サザイホ この子らが持つとるこの植物、葉っぱが5つあるでしょ？んで、真ん中が車のタイヤみたいな模様でしょ？んで、五つ葉クルマソウ。

レイルー これ、食べられるの？

カルド 食べれません。

サザイホ これ持つとると幸運が舞い込むっていう岸壁に生えてる植物、ね。

レイルー へー。

ゲティ 君らその草、どうすんの？高く売れんの？

アガタ 今日…。

サザイホ お父さんの誕生日なんだって。

ゲティ・レイルー え？

サザイホ 誕生日プレゼントなんだって。

レイルー えー。

ゲティ しゃれとるねえ、タナピテの人は。

レイルー お父さんって、あれでしょ？あの…敵前逃亡の。

カルド 敵前逃亡って言うな！

レイルー あ、ゴメン。

アガタ (サザイホに) あんたまた余計なコト言って。

サザイホ 知らないよ。

アガタ 父さんは僕ら家族を守ったんです。

ゲティ でも、敵前逃亡なんでしょ？軍人なのに。

カルド でも、父さんは、家族を守ったんです。

ゲティ 味方の軍人を見殺しにして。

カルド お前、いいかげんにしろよ亡命者のくせに。

ゲティ 何でそんなへつぼこ親父の肩を持つの？

アガタ 息子として当然です。

カルド 父は現役の軍人です。今はウチにあるこの大砲を守っているんです。そして俺も軍人になるんです。ミルドセブ青年将校を卒業し、いつかユナゴルを叩き潰すのが夢です。

サザイホ 物騒なコト言うねー。

ゲティ ちよいちよいちよい、ね、ぼっちゃんさあ、もうさ、戦争なんかやったらんのだからさ、叩き潰すとかそういうの言うもんじゃねえぞ、ガキのくせに。

カルド 僕らの爺ちゃん婆ちゃんはユナゴルの爆撃で死にました。

ゲティ 俺の親父はタナピテの爆撃で死んだよ。

レイルー うちの家は、姉さんの婚約者が殺された。

睨み合う。

サザイホ ま、ま、ま、お互いそれを言い出したらキリがないもんね。

動かない、両者。

サザイホ じゃ、もうさ、今、ココで、報復するか？ね、お互い殺しあ…

アガタ そういう時代は終わったはずです。私たちは知恵ある人間です。先の戦争から殺し合いは何も生まないと学んだはずです。

と、アガタが頭を抱えて苦しみだす。

アガタ 学んだはずなのに…、知恵ある人間として…、（と、呼吸を整え）唯一

絶対の神を信じるのです。すべてを話し、許しを請う、その行動こそが。

ゲティ それ、ユナゴルの司教さんも同じ事言ってたよ。

レイルー 口先だけの司教たち。

アガタ タナビテの神はこう言っています。隣人を愛せと。

ゲティ ユナゴルの神は、似て非なるタナビテの異教徒を殺せて言ってるよ。

カルドが激しく反応。

サザイホ 神様の言うことは話半分くらいがちょうどいいんじゃないの。

と、そこに団地長のスクロブ、とその娘、ケイジェンがやって来る。

スクロブ お邪魔しますよ。

サザイホ つと、団地長どの。

ケイジェン こんにちは、アガタ兄ちゃんカルド兄ちゃん。

アガタ ケイジェン。

カルド どうしました？スクロブさん。

スクロブ いやいや、娘がゴミの船ゴミの船って騒ぐもんだからね。

ケイジェン 父ちゃん、ゴミを見に行くぞっち言うて。

スクロブ 言っていないよー、ケイジェン言っていないよー。

ケイジェン ゴミ人間、見せちやるっち言うて連れてきてもらったんよ。

ゲティ ゴミ人間って、え、俺ら？

ケイジェン ゴミ人間ー。

スクロブ ユナゴルの亡命船は…ほら、ボロっちいでしょ、だから、ゴミの船で言

うてるんだけどね、それで娘がゴミの船見たい、ゴミ人間見たいって言うんで、ああそれだったら昨日の夜お父さんが世話した亡命者見せてやるよって。1日に1回は見回らないけんしね。連れてきた訳ですよ娘を。

ケイジェン この、汚ったねえの（ゲティ）がゴミ人間？

ゲティ うるせえ。

ケイジェン ゴミが喋った！

ゲティ お前え！

ケイジェン ひいー、こわいこわいー。

スクロブ お父さんとお母さんは？

アガタ 外に出ています…けど。

スクロブ あー、皆、仲良くやっていますか？

という問いに、ちよっと間が開くが。

カルド はい。

アガタ お互い、文化の違いを確認し合っているとこです。

サザイホ 素晴らしい。

スクロブ ふーん。うん、団地長がちよっと見まわりに来たって言うとなつて。

カルド わかりました。

ケイジェン （亡命者たちに手を…）仲良くしてね？

ゲティ え？

レイルー うん。

ケイジェン あたし、アガタ兄ちゃんとカルド兄ちゃんの許婚です。

ゲティ へえー。

レイルー 2人一緒に？

ケイジェン うん。

レイルー 凄いねえ。

アガタ 違うやろ！

カルド アホかお前！

スクロブ ひゃーっはっはっ、冗談ですわ許婚とか、あほか。こんな筋の悪い家に嫁がせるとかワシが絶対許さんですけん。

ケイジエン 父ちゃん、いいやん、許してよー。

アガタ 許さんでいいですから。

カルド 僕らも迷惑ですから。

ケイジエン ひどーい。

スクロブ ほんじゃ、帰りますわ。皆さん仲良くして、ね。

皆 はい。

スクロブとケイジエン、去る。

カルド ケイジエン相変わらずアホやなー。

アガタ 鼻水垂れとったぞ。

カルド きたねー。

⑤ 大砲

と、母に誕生日のプレゼントをもらった父が喜んで帰ってくる。

ニエフ おーい、アガタ、カルド、これ見てみる（と、服に飾り付けた五つ葉ク

ルマソウを見せる）、じゃーん！

アガタ それ…。

カルド クルマソウ…。

ニエフ 洒落とるやろ？五つの葉っぱのクルマソウ！

アガタ どしたのそれ？

ニエフ 母さんがー、誕生日のプレゼントにつて、くれたんだよねー。

アガタ あ、そう。良かったね。

カルド さっき、団地長さんが。ケイジエンと来てた。

ニエフ 何か言ってた？

アガタ 仲良くするようにつて。

ニエフ (皆に) 仲いいよねー、ね。五つの葉っぱはー、幸運のしるしー。

ニエフは皆にクルマソウを見せびらかす。

母キモエが帰宅し、ニエフと目を合わせ、恥ずかしそうにすぐ部屋へ去る。

ゲティ 君らを守ってくれる立派な父さん。

レイルー 可愛いお父さんだね。

ニエフ え？何？

カルド、ニエフに近寄って、いきなり蹴る。

皆 おあ！

ニエフ あいたー！何すんの！

カルド 知らんわ（と、去る）。

サザイホ あーあ。

ニエフ ええ？何？

サザイホ 嫌われちゃったあ。

ニエフ え、オレ、何か悪い事した？

ゲティ しました。

レイルー したでしょ。

サザイホ 最悪や。

ニエフ ええーっ？

アガタ それ。

ニエフ クルマソウ？

レイルー 見せびらかしちゃったでしょ。

ニエフ ああ、うん、嬉しかったからね。

ゲティ あー。

アガタ 父さんの誕生日やけて、僕とカルドで、今朝、海へ採りに行ったんよ。

サザイホ これ（兄弟のクルマソウを見せる）。

ニエフ あちやー。

アガタ 元々カルドが言い出したことやったし、あいつ、あれで父さんの事けっこう尊敬しとるからね…。

レイルー ま、確かに、奥さんからもらったプレゼントは嬉しいのかも知れないけど。

ゲティ 子供の心はズタズタや。

ニエフ そんなん知らんよー。

アガタ 知らんて何か知らんて！（と、去る）

ゲティ・レイルー あーあ。

サザイホ 子供の心親知らずや。

ニエフ うるさいなー、何だよお前ら、ウチに世話になっとるくせにー。

サザイホ あ、だからほら、この人が、さっきの敵前逃亡の。

レイルー はいはい。

ニエフ 敵前逃亡じゃないって。

ゲティ 敵を前に、逃げたんでしょ？

ニエフ 仕方なかったんだよあれは。というか、あんたまた勝手なホラ話を。

サザイホ あらら、ホラ言いますか？これは軍関係者への綿密な取材に基づいて描かれたノンフィクションなんすよ。

ゲティ じゃあ、この家の大砲が使い物にならないってのも？

サザイホ もちろんホント。

ニエフ 動きます。使い物になりますって。常にユナゴルに向けて照準を合わせ、いつ何時でも発射できるようになっとるんです。

サザイホ じゃあ、発射してみてくださいよ。

ニエフ え…。

サザイホ 大砲、撃つてみてくださいよ。

ゲティ それは…。

レイルー やめた方が…。

ニエフ うん、危ないよー、そんなことしたら戦争になっちゃうよー、せつかく今は冷戦状態なんだから、睨み合ってるだけなんだから、そつとしようよー。

サザイホ 大丈夫ですよ。

ゲティ え、何が？

サザイホ こいつは本当に役立たずですから、何も発射できないし、だから戦争になんかなりっこないし。

ゲティ でもこの人は現に大砲守なんでしょ？この人が一番この大砲には詳しいんでしょ？だったらこの人の言う事の方が正しいんじゃないかなあ？

ニエフ 君の言うことは筋が通っている。

サザイホ この旦那は…、先程も言いましたが、敵前逃亡の罪で捕らえられております。その罪を償う為に、今はもう使われなくなった大砲のお守りをしているのです。この国では、そういったどうしようも無い軍人をどうしようも無い軍事施設で面倒を見るということが良くあるのです。

ゲティ・レイルー ヘー（と、雰囲気的にサザイホ寄りになる）。

ニエフ 分かった。分かった、百歩譲って「この国ではそういうことがある」という事にしよう。

ゲティ やっぱり！

ニエフ しかし、この大砲だけは違う！

レイルー うっそだー。

ニエフ 本当だって。

ゲティ 嘘っぽいなー。

サザイホ さすが、この人達は真実を見る目がある。

ニエフ ないない！だいたい嘘っぽいって何ですか、ぼいって。ぼいとかぼくな

いとかで戦争起こしちゃっていいんですか？

サザイホ いい。

ゲティ・レイルー え？

サザイホ というか、大砲は動きません。言わば不能な状態です。使い物になら

んです。使い物にならないものを一生懸命動かしてもこれは到底戦争に
なんぞなりっこありません。

ゲティ・レイルー 不能かあ（ホツとする）。

ニエフ 不能じゃないって。

レイルー あ、だったら、ウチの兄ちゃんに不能の治療をお願いしたら？

ゲティ ええ？

サザイホ と、いいますと？

レイルー 兄は、こう見えてユナゴルで新型爆弾の製作に関わっていた科学者なん
です。

サザイホ まあじで？

ゲティ やめてやめて、もうホント末端の人間だから。

レイルー 新型爆弾の威力は、ホント凄いんだから、タナビテなんか一発でおしま
いなんだから。

サザイホ 噂には聞いてたけど。

ニエフ 本当に作ってたんだ…。

ゲティ 僕は、あの、でも、爆弾部分担当だったんで、大砲の、その撃ち出すと
いう機能についてはさっぱり…。

レイルー いいのいいの。ちよろつと診てあげて。

ニエフ 診なくていい診なくていい、治療とか要らないし、ちゃんと動くんだか
ら。

サザイホ じゃあだったら、動くところ見せてくださいよ。

ニエフ いや…、だって…。

それを影で聞いていたカルドとアガタが顔を出す。

カルド 新型爆弾やて。

アガタ 一発でタナビテがおしまいで。

カルド ユナゴルの軍事力は思ったより進んだらんならろうか…。

亡命者達、ニエフにじり寄りながら。

ゲティ 動くって言うんなら動くところ見せてくださいよ、ねえ。

レイルー そうね、動くっていうんならねえ。

サザイホ うっごかせ、うっごかせ。

ニエフ おい。

ゲティ うっごかせ、うっごかせ。

レイルー うっごかせ、うっごかせ。

静かに「動かせ」コール。

カルドは父が大砲を動かすのではないかと期待して参加。

カルド うっごかせ、うっごかせ。

アガタ カルド。

ニエフ だから何度も言うようにね、動かしちゃったら取り返しのつかない事にな
るんだよ？

皆 うっごかせ、うっごかせ。

キモエが出てきて、カルドを一発殴る。

キモエ ちよつとちよつと何の騒ぎ？

ニエフ こいつらが大砲を撃ってみろって言いやがるんだよ。

キモエ んなことできる訳無いでしょ。

ニエフ 皆で、この大砲は使い物にならないんだって俺をからかうんだよ。

キモエ だったら、ちよこつと動かしてみればいいじゃない。撃たなくていいんだから、動くって事を証明できればいいんだから。

ニエフ 分かった。

キモエ よーし、あんた、ビシツと言っておあげ！

ニエフ 分かった！そこまで言うんだったら、ちよこつとだけ動かしてみる。

皆 おおー。

ニエフ (大砲部屋の入口に立ち) 今から、ユナゴルのオリイワン軍事基地に照準を合わせます(と、部屋に入る)。

皆 おお…。

と、大砲の台座が何かを動かしている機械音がちよつとだけ聞こえ、皆は盛り上がる。…が、音はすぐに止む。
そして、ニエフが出て来る。

ニエフ どうだあ！

ゲティ どうだって何だそりや、ちよびつと音が聞こえただけじゃないの！

レイルー あんなの動いたうちに入らない入らない。

ニエフ だって照準合わせただけなんでもん、これ以上動かしたら…もう、撃っちゃう事になっちゃうでしょ！

サザイホ やっぱ不能なんだ。

ゲティ 不能かー。

ニエフ 不能じゃないって、おいお前からも言ってやれよ！不能じゃないって。

キモエ あのねあんた達、この人はね、こう見えて不能じゃないんだから、弱そうに見えて確かに弱いんだけど、でも、ちゃあんと機能は果たしてるんだから！

サザイホ 不能ー。

キモエ うるさい、この寄生虫野郎が、お前に言われる筋合い無いんだよ。

ニエフ うじ虫野郎！

サザイホ 奥さん、(ニエフのクルマソウをつかんで)これは不能人間に奇跡が起こりますようにってプレゼントしたんですよね？

キモエ 違いますよ！

ゲティ ふ、の、う、ふ、の、う。

不能コールはサザイホ、レイルーへと広がっていく。

キモエ あったま来た！ちよつとあんた！大砲でも何でもとつとどぶつばなしてやんなさいよ！

ニエフ それは出来ないよ！

キモエ 何で出来ないの、撃てばいいじゃない！

ニエフ だって。

キモエ だって？

ニエフ 本当にこの大砲は。

サザイホ 本当にこの大砲は？

ニエフ ……。

ゲティ 何だよ、本当は何なんだよ。

サザイホ 玉が出ないんだよな、撃ちたくても撃てない不能野郎なんだよな？

ニエフ 本当はこの大砲は…、使い物に…。

レイルー 戦争、始まるの？

ゲティ まだ分かんねえよ。

アガタ 始まる。

レイルー え？

アガタ 始まる。

レイルー もうユナゴルには戻れない？

ゲティ まだ分かんねーって。

ニエフ (電話に) はい、そうです。ウチの大砲です。はい。あ、いえ、そういう訳では…。

電話、切れる。

キモエ なんだったって？

ニエフ こっち、来るって。あと、反撃に備えよって。

キモエ 反撃？

レイルー 嬉しいのね、あんな国、ざまあ見ろって思うんだけどね、でもね、悲しいんだよね、何でだろうね。こういうのってやっぱ…。

アガタ ああああ…。

近くで激しい爆音が聞こえる。

ニエフ 爆撃だ！

ゲティ 近いぞ！

アガタ 家に閉じ込められてる人、逃げようとする人、出来ない人、部屋の中で蒸し焼きになる人、飛び降りる人、燃える、倒れる、死ぬ。ユナゴルの砲弾、モドニナナ海峡を越えて、タナビテに着弾。39棟に着弾。

カルド 39棟？

アガタ 燃える、燃える、倒れる、死ぬ。

サザイホ おい、アガタ、そういうのやめろや。

アガタ 行ってくる！

ニエフ アガタ！

アガタは39棟のある方へと走り去る。

警報が鳴り響く。

ゲティ 立場無いな、オレ達。

レイルー うん。(サザイホに) ね、あんたが悪いんだよ。

サザイホ だって大砲が動くとか思ってたんだもん。

レイルー 戦争始まっちゃうよ？

ゲティ オレ達、捕虜だな。

レイルー うそ！

ゲティ しかもタナビテに協力しないと、生きてはいけない。

レイルー 協力って？

ゲティ ユナゴルの軍事機密とか。

レイルー うん。

ゲティ 俺は末端と言えど、色々知ってるからなあ。

レイルー だね。

ゲティ 自由どころじゃない。

別の爆撃音が聞こえる。

団地長、スクロブが現れる。

スクロブ テダ・ニエフは居るか？この責任者テダ・ニエフは居るか？

ニエフ はい！

スクロブ この大砲を発射させたのは誰だ？この亡命者どもか？

ニエフ それは…

カルド 僕です。

スクロブ カルド君が。

ニエフ はい。あの、その件でなんですけど…スクロブさん、あなたウチの息子に…

カルド 大砲守テダ・ニエフの次男、テダ・カルドが大砲を発射させました！

サザイホ 間違いないっす、その坊ちゃんが。

スクロブ そうか、君の一発が我々の世界の在り方を大きく変えるかも知れんよ。

カルド え？

スクロブ 世界はね、誰かが一発撃ち込んでくれるのを待ってたんだよ。ユナゴルだってタナビテだって戦争を起こしたかったんだ。

カルド え、じゃあ。

スクロブ 開戦だよ。

カルド 開戦…

スクロブ ユナゴルの軍事施設が爆撃されたんだ、向こうさんにしてみれば、充分報復の言い訳になる。

ニエフ 我がタナビテは？

スクロブ ユナゴルからのスパイが収容施設で暴動を起こし大砲を発射、運悪くユナゴルに落ちた、そういう筋書きが作られている。

ゲティ おい、なんだよそれ！

レイルー 暴動って何よ！

サザイホ あながち嘘でもないやろ。

ニエフ 人をおちよくって、騒いで。

ゲティ それは…

スクロブ 申し訳ないが、ユナゴルの客人にはそういう筋書きに沿って行動してもらいますね。

レイルー はあ？

スクロブ (銃を取り出し) よろしくお願いします。

ゲティ …わかりました。

スクロブ カルド君。

カルド はい。

スクロブ (手を差し出して) お手柄だったね。

カルド (握手) はい！

サザイホ (スクロブに) あんた、カルドを使って細工したやろ。

スクロブ 何の話だ。

アガタが傷ついたケイジエンを背負って戻ってくる。

ケイジエンは雑布で顔や頭を半分くらい隠している。

アガタ 39棟は大破、壊滅的な被害を受けている模様。

ケイジエン 熱いよ、熱い、アガタ兄ちゃん熱いよ。

スクロブ ケイジエン？

アガタ 公園で倒れとったケイジエンを見つけたんで、連れてきた。

スクロブ おい、大丈夫か？

アガタ ちょっとヤケドしとるだけやと思います。

スクロブ 治療を！

キモエ はい！

キモエ、薬などを求め、去る。

ニエフ ケイジエンちゃん、心配せんでいいけね。

ケイジエン 熱い、顔が、熱い、アガタ兄ちゃんカルド兄ちゃん、顔が焼ける…

アガタ 家に閉じ込められてる人、逃げようとする人、出来ない人、部屋の中で

蒸し焼きになる人、飛び降りる人、燃える、倒れる、死ぬ。ユナゴルの砲弾、モドニナ海峽を越えて、タナビテに着弾！轟棟に…、ああああああああ……！

アガタ、再び発狂。

兄弟喧嘩の時の比ではなく、とにかくバタ狂う。

ケイジエン アガタ兄ちゃんどうしたん？アガタ兄ちゃん？

サザイホ 発作や発作、バランスが崩れとるんや。

キモエ、戻って来て。

キモエ アガタ！アガタ！すっかりせんね！

ニエフ 落ち着け！大丈夫や、まだ大丈夫やから！

キモエ カルド、ダイノア先生を呼んで！

サザイホ アガタ、ほら、クルマンソウや！幸運の草や！

ニエフ 葉っぱが5枚もあるヤツぞ！これで何とかならんか？

キモエ なんとかなる訳ないやろーが！

ケイジエン、続いて両親がアガタに抱き付いて、アガタの痙攣を押さえようとする。

それでもおさまらず、サザイホも亡命者達もその上から覆い被さり、皆、アガタの名を呼び続ける。

それはアガタにすがっている姿にも見える。

傍らにスクロフとカルドが立ちつくしたまま。

⑥ 広告塔

1年後。

同じくテダ家の居間。

トエジエロ総統がどっかと椅子に座り、優雅に飲み物を飲んでいる。

その様子をカメラマンが写真に撮っている。

トエジエロはそのつど何となくポーズをとっている。

トエジエロ 俺一人撮ってもしょうがないっしょ。(ポーズ)今日の主役は俺じゃな
いんだから(ポーズ)。

家に居たスクロフが部屋から出てきて。

スクロフ 今、来ます。

トエジエロ おう。

と、トエジエロ立ち上がり。

部屋から、カルド、ニエフ、キモエが現れる。

スクロフ トエジエロ総統です。

トエジエロ よろしく。

家族はガチガチに緊張しながら、各々「よろしくお願ひします」などと言う。

スクロフ こちらがお父さん、テダ・ニエフ大砲守で(ニエフとトエジエロ、握手)、
こちらがお母さんのキモエさん、そして今やタナビテ国民のヒーロー、
カルド君です。

トエジエロ (握手しながら) やつと会えたね。

カルド はい！トエジエロ総統に会えるなんて、夢のようです。

トエジエロ まあまあ。

スクロブ 本日は来る「開戦1周年」を記念し、様々なマスコミ媒体にお二人を取り上げてもらおうということで、スチール写真をとお願いした次第です。

カルド・ニエフ・キモエ よろしくお願ひします。

スクロブ 戦争の火ぶたを切った英雄として、カルド君の人気は今やアイドル並みです。そこで軍最高司令者トエジエロ総統とのツーショットで様々な雑誌の表紙を飾り、国民のさらなる戦意高揚を図ろうと思っております。

トエジエロ 何に載るの？

スクロブ えー、週刊現代的、週刊朝顔、週刊嫁入り、働く女性の情報マガジン「ノノン」、ファッション雑誌「アネアネ」、働かない女性の情報マガジン「キヤインキヤイン」「ジエイジエイ」、お婆ちゃんの為のファッション雑誌「セブンティ」、とかもう一通り全部です。

トエジエロ 幅広いな、え、何、お婆ちゃんの為のファッション雑誌って。

スクロブ セブンティですね。

トエジエロ 70歳！

スクロブ 70歳がお好みですか？

トエジエロ ちげーよ、バカか。

スクロブ 激しく反応されたので。

トエジエロ そんなご高齢の方が興味持つの？

スクロブ カルド君、今、お婆ちゃん世代から「可愛い」と大人気なんです。

トエジエロ へー、凄いな。

スクロブ じゃ、撮影に入りますから、お父さんお母さんは一旦、すみません。

ニエフ ああはい。

キモエ よろしくお願ひします。

スクロブ、小道具の武器を用意しながら。

スクロブ これ、小道具です。適当に持って、構えてください。あと、カメラマン

ですが、軍の記録カメラマンしか用意できなかったんで、すみません。

トエジエロ はいはい。

と、トエジエロは撮影慣れしているのか、小道具を持って構えたり、カルドに渡したり。

スクロブ カルド君、何か持つてね、はい、じゃあ、撮りますよ。はい並んで、はいポーズ、カメラ見て、勇ましい感じで。いいね、いいよ。タナビテは俺が守る！

みたいな感じで、はい。ユナゴルなんか木端微塵！はいOKい。じゃ、今度は笑顔で。はいはい素敵、可愛い。二人、なんかいい感じ。

トエジエロ 戦争終わったら、ユニット組んじゃおっか。

カルド え？

トエジエロ CDデビュー。

カルド ええ？

トエジエロ 嘘だよーん。

カルド あ、はい。

トエジエロ 戦争、終わんのかねえ。

カルド 終わらせてみせます。

トエジエロ 言うねー。言っちゃうねー。

などと2人が会話している間に、スクロブはカメラマンと撮った写真を確認している。

スクロブ はい、OKなんで、次に、えーっと、婚活マガジン「セクシイ」の表紙
いきたいんですけど、カルド君、例の婚約者さん…とのスチールいいか
な。

カルド あ、はい。

トエジエロ ええー？結婚するの？

カルド はい、今はまだ、婚約って状態ですけど。

と、カルド、部屋へ婚約者を呼びに。

トエジエロ まだ若いのに、えー、もつと遊ばばいいのに、いいのかなあ決めちゃって、ねえ。

スクロブ まあ、こればかりは当人同士のコトですから。

と、カルド、婚約者のレイルーを連れて現れる。

トエジエロ わお。

スクロブ (レイルーに) ビックリしましたよ。

レイルー 自分が一番びっくりしてます。

カルド 僕もです。

トエジエロ おいおい、幸せビーム発射し過ぎだぞー。

カルド すみません。

スクロブ はい、じゃあ撮っちゃいませよ、ちやちやつとね。じゃあ、まずは向き合ってみて。お、いいねえ、じゃあそのままカメラ目線、はい笑顔、笑顔堅い、柔らかく、あ、総統、2人を笑わせてください。

トエジエロ え、俺？

スクロブ 早く。

トエジエロ、変な顔したり、いろいろ。

スクロブ いいねえ、自然な笑顔キタねえ。レイルーちゃん、何かキメ台詞よろしく。

レイルー 「ユナゴルより、カルドが好き」

カルド ええー。

レイルー 「国家より彼氏」

スクロブ はいはい、言うねー。じゃあ次、トエジエロ総統入ってもらっていいですか？はい、ちよつと後ろの方で、はいその辺で、羨ましそうに。そう、羨ましそうに。悔しい、俺も結婚したい。婚活しよう。いいっすねえ、総統やりませねえ。役者ですな。はいOKっす。ありがとうございませ。お疲れ様でした。

トエジエロ はいはい。(カルドに) 彼女、どこで見つけてきたの？

カルド あ、彼女、レイルーは、ユナゴルからの亡命者で。

トエジエロ え、マジで？

スクロブ そういう国境を越えた愛なんですよ。

トエジエロ あ、それで「ユナゴルよりカルドが好き」なのね。なるほどなるほど。レイルー はい。

トエジエロ このネタ何か使えるんじゃない？

スクロブ もちろん、そういう特集で。

トエジエロ いいなあ、結婚したくなってきたなあ。

カルド しないんですか？

トエジエロ 誰か紹介してよ。モてるんでしょ？

カルド いえいえ。

トエジエロ 2〜3人こつちに回してよ。自分結婚するんだし。

カルド そんなモテ無いですよ。

トエジエロ 俺たちもう友達だからさ。

カルド え？

トエジエロ だからマジで誰か紹介しろよ、紹介しなかったら、ガンガン序列下げっからな。

カルド 分かりました…。

トエジエロ (笑顔)

と、大きな爆音。地響き。

スクロブとトエジエロは慌てて窓の外を見る。

スクロブ 南の方角か…。街中に近いな。

トエジエロ 戻るか。

スクロブ はい、急ぎましょう。

カルド ありがとうございます。

トエジエロ (レイルーの手を握って) お幸せに。

レイルー はい。

スクロブ、小道具一式を持ち、トエジエロ、カメラマンと共に去る。
その去って行く様子を、サザイホが見ている(以降、しばらく皆を観察)。

⑦ 亡命者の分岐点

カルド (照れて) ユナゴルよりカルドが好きって、そんなこと思ってたんや。

レイルー 何か、口から出ちゃった。

カルド 本音が？

レイルー わかんない。

カルド 何で結婚しようって言ったん？

レイルー ー、タナビテの男だったら誰でも良かったのかも。

カルド 何それ？

レイルー 大砲、目の前で一発ぶち込まれて、もうユナゴルには戻れないって思っ
て、だったらタナビテの男とくっ付こうかなって、そうしたらもう戻ろ
うとか思わなくていいでしょ。

カルド 一発…。(笑って) ぶふっ、ぶち込まれてって。

レイルー バーカ。

カルド うん、バカ。

レイルー もうどうなってもいい。

カルド お兄さん、絶対許さんって。

レイルー ゲティ…。

カルド 反対しとるよね。

レイルー 兄ちゃんは…逆。逆なんよ。

カルド 逆？

レイルー 一発ぶち込まれて、その、ユナゴルに帰りたくなかったみたい。

カルド 女って怖ええな。

レイルー 女の方が現実的なんよ。夢食って生きていけんやろ。

カルド ま、そうだね。

レイルー やけ、ちゃんと仕事してよ。

カルド あ、うん。

レイルー 今日みたいな、雑誌の表紙とかそんなんばっかだから。ちよつと持ち上
げられて、いい気になって。

カルド いい気になつたらんって。

レイルー 何か軍人らしい働き、した？

カルド …やってるよ。大砲の修理、整備、俺、けっこう評価高いんやけ。

レイルー ちゃんと戦果あげんと、そのうち見限られるよ。

カルド うん、やけ、新型爆弾、作るの、急いどる。

レイルー ゲティ。

カルド いやいやだけど、やってる。

と、ゲティが顔だけ出して、罵る。

ゲティ この、あばずれが！

レイルー やめてよ！

ゲティ 一発ぶち込まれて、ころっと寝返りやがった。

レイルー 元々、タナビテで生きて行こうって言ったのは兄ちゃんでしょ？何よ一発の爆撃で急にビビって里心芽生えちゃって。

ゲティ うるせえ裏切り者！

レイルー 考えが変わっただけ。

ゲティ 裏切り者。

レイルー だから兄ちゃんも考え方が変わったんでしょ？

ゲティ お前えがタナビテの男を唾え込むとはな、ある日、コロっとだよ、びっくりだよ。こんなガキたらし込みやがって。

レイルー やめて。

カルド うるさい。黙って爆弾の研究をしろ。

ゲティ 坊ちゃん軍人さんよ、万が一、新型爆弾がもし出来てもさ、海底神殿に落としてくれよ。

カルド はあ？

ゲティ あんなのがあるから揉めるんだろ？いらねえよ神殿とか！

カルド 神殿は重要だ。国民の心の拠り所だからな。

ゲティ だいたい本当にあるのかね？神殿が？海底に？そんなの見た事ねえよ！見た事ねえもんを必死こいて守って攻撃して命落としてバカじゃねえの？

カルド 黙って作れ！

と、ゲティの部屋に突入し暴力。
奥からは激しい殴り合いの音。

レイルー やめてって、暴力はやめて！

カルド くそっ！

と、カルド戻ってくる。

すぐにゲティが顔を出して。

ゲティ ハチマコウイルカを持ってきなよ。モドニナナ海峡にうようよ泳いでるからさ、捕ってこいよ。

カルド ハチマコウイルカの捕獲は禁止されている。

ゲティ ご存知の通り、新型爆弾を作るにはハチマコウイルカが必要なんだよ。

カルド わかっている。

ゲティ イルカの内臓に含まれるハチマコウ酸があれば、爆弾は出来るんだよ？

カルド それ本当なの？ユナゴルだって爆弾の開発に成功したらんのやろ？

ゲティ 1年前に「実用化まであと一步」って言ったからね、そろそろ完成する頃なんやないの？

カルド 時間の問題か…。

ゲティ ハチマコウ酸、持って来いよ。早くイルカ持って来いよ。

カルド そんなことをしたら、神の怒りが…。

ゲティ 神なんか居るか！バカじゃねえの？ユナゴルにもタナビテにも神なんかいねえんだよ。みいんな、居ねえもん振り回されてんだよ。

カルド 黙れ。

ゲティ 神殿だって、たかだか5メートルとか10メートルの石の塊だろ？ぶち壊していいんだよ、そんな石の塊。

と、アガタがケイジェンに付き添われて現れる。

⑧ 神の審判は近い

ゲテイ 生き神様だ…。

カルド 兄ちゃん、どうかした？

ケイジエン なんか、急に立ち上がった…。

ゲテイ おいアガタ、今日は調子いいんか？

アガタ いつやめればいいのかと、問われれば。

カルド え、なに？

レイルー 何かのお告げ？

ゲテイ 生き神さんの言う事なら信じてもいいかもな、目の前で生きてんだから。

アガタ いつやめればいいのかと問われれば、今やめなさいと答えよう。今この瞬間も皆、破滅への階段を一つずつ登っているのだ。

皆、一様に黙る。

カルド 兄ちゃん、不吉なコト言うなやー。

アガタ 神は使いをよこし、この事を彼らに伝えた。しかし使いの者が話す言葉は彼らには届かず。その耳に届いた者も、これを何かの冗談だと断じ、見過ごされた。

ケイジエン うん、わかったよ。アガタ兄ちゃん、わかったよ。

ダイノアがやってくる。

ダイノア さあ、アガタ君座ろうか。よし、そこに座ろう。

アガタ 神はこれを黙って見過ごすわけにはいかなかった…。

ダイノア 頭の機械、調整しますからねー。大人しくしててねー。

ダイノア、カートリッジを交換したり、作業。
キモエとニエフがやって来て、アガタの様子を見ている。

ダイノア カルドくん、君の所為でこうなった。

カルド 分かってます。

ダイノア 君が撃ってしまったあの日から、ずっとこうだ。

カルド すみません。

ダイノア そういう君は今、幸せの絶頂だ。なんだろうねえこの不条理な感じ。

カルド 自分は、自分なりにその瞬間を一生懸命に生きているだけなんです。

ダイノア けれど、兄弟同士でバランスが取れていない。

キモエ あの、アガタは今、どういう状態なんでしょうか。

ダイノア かつてアガタくんは極度の衝撃を受けた、その時に、彼の中で、もう一つの世界に通じる扉を開けてしまったんです。

ニエフ もうちよつと具体的に。

ダイノア 過去から未来まですべてが見渡せる部屋、みたいなものが、仮にある、としましょう。

キモエ・ニエフ はい。

ダイノア 衝撃的な場面において、彼は、そういう部屋に一時的に逃げ込んでしまった。

キモエ ぼーっとしてたり、そういう時ですね。

ダイノア そんな中、大砲が発射され、開戦という衝撃的な事件が起こり、そのもう一つの部屋に行つたままになつてしまった。

ニエフ ココには居ないんですか？

ダイノア 隣の部屋に居る、感覚です。声は聞こえたり、誰が居るかとか、気配で分かるでしょうか？

ニエフ なるほど…。

ケイジエン お兄ちゃん、聞こえる？あたしが分かる？

アガタ わたしにはすべて見えている。ただ、手が届かないのだ。
ケイジエン うん、そうね。あたしお兄ちゃんの手になるよ、足にもなるよ。
ダイノア この子は少しアガタくんに近い所に居るのかも知れないですね。
キモエ 付いてくれるんでほんと助かってます。

と、皆がアガタとケイジエンを見守る。

カルド 結局みんな兄ちゃんが好きなんやろ？

ニエフ はあ？

カルド 俺は問題ばっかり起こすけ、厄介者なんやろ？だったらそう言えばいいやん！

ニエフ そんなこと無いやろうが。

カルド 気い使ってくれんていいよ。俺は俺で生きて行くんやけ。

キモエ カルド！

ニエフ お前、あんま無茶するなよ。

カルド はあ？

ニエフ お前、最近、危ないぞ。

カルド は？なにが？俺、トエジエロ総統が会いに来てくれるんぞ？父さんみたいな三流軍人と一緒にせんで。

ニエフ、一瞬怒りがこみ上げるが。

ニエフ そうやな、俺は三流で、お前は今、タナビテの希望の星やからな。

カルド 何それ、取って付けたみたいな。

ニエフ 希望の星は、その星に見合う仕事をせんといけん。

カルド 言われんでも分かっとる。

ニエフ 仕事は自分で見つけないけん。

カルド 今自分に課せられているのは新型爆弾の開発なんよ。

ニエフ そして仕事は大きくなくていい。

カルド 新型爆弾を作るにはハチマコウ酸が必要なんよ。

ニエフ (急に近づいて) お前、ハチマコウイルカには手を出すなよ。もしバレたらお前、生きていけんことなるぞ。

カルド、舌打ちして、ゲティの部屋へ。

暴力。

泣くレイル。

ダイノア 失礼します。

去るダイノアにニエフとキモエは会釈。

サザイホ、現れて。

サザイホ 気い狂ったみたいにやりよるなあ。同じキチガイならアガタの方が何ぼ

かマシやな。

キモエ 何でこんなことになったんやろ…。

ニエフ (アガタに) お前がしっかりしとる頃は、あいつも少しは抑えられとつたんやけどなあ。兄弟で何かそういうバランスがとれたんやろうな。

サザイホ 元々は、あんたら夫婦のせいなんじゃないのー。

ニエフ お前さ、何が言いたいの？

キモエ あんたねえ…。

キモエ、サザイホを睨み付けて去る。

ニエフ おい、何だ？何なんだよ？

ニエフ、キモエを追って去る。
レイルも自分の（カルドの）部屋へ去る。

サザイホ（アガタに）俺も何がやりたいのかさっぱり分からんわ。

と、去る。

ケイジエン アガタ兄ちゃんには、あたしが付いとるけね。

アガタ そうやって皆ここを立ち去った。皆、本当の事を聞くのが怖かったからである。

⑨ 昔の仲間

キモエが暗い中、一人で座って、「モドニナナの流れ」を静かに歌っている。手にはグラスを持っていて、酔っているようだ。

♪巻き込まれ 流されて

沈んでく その海底（うみぞこ）に

浮き上がる

息をする

辿り着いたる その場所は

いつか見た わたしの家族

それを途中からサザイホが見ている。

キモエが気付いて。

キモエ 何聞いてんの。

サザイホ 珍しい。

キモエ 歌？

サザイホ お酒。

キモエ …あんたも飲みなさい。

サザイホ はいはい。

サザイホ、キモエのグラスを持って一口。

サザイホ きつう。濃い。

キモエ この流れは止められんのかな。

サザイホ 止められないねえ。

キモエ 一緒にユナゴルから渡って来た日…。

サザイホ キモエさん、お口が軽くなってますよ。

キモエ 秘密工作員が今やこんな、一家の主婦だつてさ。

サザイホ 聞かれますよ。

キモエ 何で？

サザイホ え？

キモエ 何で、こんなことになってんの？

サザイホ そりゃ、あなたがタナビテの男と結婚したからでしょう。

キモエ うん。

サザイホ こつちこそ、何で、だよ。

キモエ うんうん。

サザイホ 自分だけうまいコトやって、俺だけ捕まって。

キモエ うまく、いつてんのかなあ。

サザイホ そうね。

キモエ 息子がユナゴルぶつ潰すつて言つてんだよ。

サザイホ 止められないねえ。

キモエ サザイホは、どうしたいの？

サザイホ どうしたいってのは、無いね。そういうのやめた。もう、その場その場を楽しむしか無いでしょ。いつか死ぬんだから。

キモエ 死にたくないなあ。

サザイホ うん、死にたくないけどね。

キモエ 海底神殿とか、もうどうでもいいんだけどなあ。

サザイホ タナビテの人も本音じやどうでもいいでしょ。

キモエ 神殿あつて、生活が良くなりますか！って話でしょ。

サザイホ あはは。

キモエ 家族が出来るよね、やつば、守りたいって思うんだよね。

サザイホ らしいね。

キモエ 家族を悲しませたくない。死なせたくもない。

サザイホ よ！大黒柱！

キモエ うるさい、黙れ。

サザイホ 黙るよ。で、キモエも、これ以上、余計な話はしないように。

キモエ わーってるよ。

と、先ほどの続きを歌いながら去って行く。

♪波のよう 連れてつてよ

モドニナナ 我らが海か 我らが空か

モドニナナ わたしのこころ 渦巻いて

サザイホが見送る。

残ったグラスを飲み干す。

カルドがゲティの部屋から出てくる。

カルド あ、ちょうど良かった。

サザイホ 拷問は終わりましたか。

カルド あの、サザイホさんにお願いがあるんですけど。

サザイホ 何？効果的な拷問の仕方とか知らんよ？

カルド ハチマコウイルカを、調達して欲しいんです。

サザイホ お、俺？

カルド 昔、スパイだったんでしょ？

サザイホ スパイじゃないよ。

カルド 極秘にやっつて欲しいんです。

サザイホ …報酬は？

カルド 軍に掛け合つて、サザイホさんに完全な自由を保障します。

サザイホ まあ、俺はイルカにアレルギー無いからなあ。

カルド お願いします。

サザイホ 本当にいいの？

カルド 背に腹は代えられないですから。

サザイホ 何でそんな死に急ぐの？

カルド 生き延びたいだけです。

サザイホ 自分が、だろ？

カルド 新型爆弾を完成させられなかったら、俺は終わりなんです。

サザイホ 親の心、子知らず。

カルド なんすか？

サザイホ 自分のコトしか考えてないね。

カルド サザイホさんでしょ。

サザイホ ま、そっか。

と、サザイホが家を出て行こうとする。

カルド おい、どこへ行く？

サザイホ イルカを仕留めてくれる漁師を探さんとね。

サザイホ、出て行く。

カルドは自分の決断にしばしビビっているが、覚悟する。

⑩ ハチマコウ酸

翌日。

ゲティ 何かあったらお前があおのキチガイを止めるんだぞ。

レイルー 何かって、何？

ゲティ また大砲を撃つ時。

レイルー 新型爆弾？

ゲティ そうだ。

レイルー どこまで出来てんの？

ゲティ もう最終段階。

レイルー もう出来ちゃうの？

ゲティ あと、ハチマコウ酸さえ手に入れば、すぐにでも。

レイルー 作らなきゃいいじゃない、ユナゴルに落とすとして欲しくないなら。

ゲティ 作らなきゃ俺が殺されるんだよ！

レイルー ユナゴルに落とすとして欲しく無いんでしょう？友達や親戚も居るんですよ？

ゲティ じゃあ、俺に死ねって言うのか。

レイルー そうじゃないけど…。

ゲティ カルド、止めろよ。その為に近づいたんだろ？

レイルー ; 最初はそのつもりだったけど。

ゲティ おい、気が変わったのかよ。

レイルー ココまで来たらもう、乗っかるしかないよね。

ゲティ はあ？

レイルー 現実的なんだよ。女は。

ゲティ お前、サイテーだな。

レイルー 夢見とつても生き残れんやん。

と、サザイホが現れる。

が、ゲティ、レイルーの居る次元とは少しずれていて、別途、会話が行われる。

サザイホの手には大きなビニール袋。

そこにカルドが現れる。

カルド それが？

サザイホ 例のブツだよ。

カルド 内臓だけ？

サザイホ うっかり網に掛かって死んだハチマコウイルカがおつてね、それを解体

してもらった。

カルド だったら、捕獲したことにはならない…。

サザイホ 死体を解体したから…まあ、同罪やと思うけど。

カルド、袋を受け取って、中身を見る。

カルド うわっ、凄っ。

サザイホ 凶悪な匂いやろ。周りにバレんようにな。

カルド わかった…。ご苦労。

サザイホ 俺は何もしてないし、何も知らない。

カルド はあ？

サザイホ そこら辺に落ちてたゴミ袋を拾っただけ、それを軍人さんに届けただけ。

カルド まあいいや。

サザイホ んじゃね。

サザイホ、立ち去り。

レイルも立ち去っている。

残った、ゲティとカルドが向き合う。

カルドの手にはビニール袋に入ったハチマコウイルカの臓物がある。

カルド ハチマコウ酸だ。

ゲティ (受け取って、中身を見る) うはっ、くさっ！ううわ、こりや間違いなえや、坊ちゃん凄ええな。ホントにハチマコウイルカ持ってきやがったよ。

カルド カルドさんと呼べ。

ゲティ カルドさん、これどうやって手に入れたの？

カルド お前は知らなくていい。

ゲティ 罰当たってもしらねえぞ。

カルド いいから黙って作れ。このくだらない争いを終わらせるにはこれしか無いんだよ。この一発で、タナビテの市民が助かるんだ。

ゲティ 作ってもいいけど、一つ条件がある。

カルド 何だ。

ゲティ 撃ち込むの、ユナゴルじゃなく、海底神殿にしてくれるんなら、作ってもいい。

カルド はあ？

ゲティ あれさえ無けりやお互い平和なんだ。そうだろ？

カルド 神殿が無くなっても、どうせまたいがみ合うんだよ。距離が近いしね、相手が気になるんだよ。隣の芝生は青いみたいだね。あっちの方が儲かるとか資源が豊富だとか。それで結局いがみ合うんだよ。

ゲティ そうかも知れんけど、今、目の前の厄介者を排除すべきなんじゃない？

カルド …分かった。約束する。海底神殿に撃ち込むよ。

ゲティ 本当だな。

カルド 新しい爆弾の完成が重要なんだ。まずはそれを持つただけでいいんだ。ユナゴルが持つてるんなら、俺らも持つてないといけないんだ。

ゲティ ま、分かるけど。

カルド 頼んだ。

ゲティ …了解。

そこに、爆音。

カルド 急いでくれ。

ゲティ あとはハチマコウ酸を抽出して、既に完成してる原液と反応させればいい。すぐだよ。

爆音が続く。

カルド 逃げ。

ゲティ あいよ。

ゲティ、去る。

爆音に不安をおぼえるカルド。
と、ニエフが駆け込んでくる。

ニエフ 大変な事になつとるぞ。

カルド どしたん？

ニエフ 岸壁によ、ゴミの船がぞくぞく漂着したんよ。

カルド うん。

ニエフ こりやまた亡命者がいっぱい来たわーって、ユナゴルも政情がだいぶ不安定になつとるんやないかって言いよったんよ。

カルド そしたら？

ニエフ 軍のもんがゴミの船に近づくな。

カルド うん。

ニエフ それで近寄つたら船ごとボンって爆発よ。

カルド ええ？

ニエフ 岸壁は今大変な事になつとる。ゴミの爆弾が続々と漂着しとる。

カルド ユナゴルがよいよ本気出してきたんやろうか？

ニエフ そうかも知れんな…。

爆音。

カルド 新型爆弾の完成が遅れとつて、それで焦つとるんやなからうか？

ニエフ そりや分からんけど…。

カルド 間に合うかも知れん。

ニエフ お前…もしかして。

カルド 父さん、勝利の日は近いよ。

ニエフ お前、何したんか？

カルド え？

ニエフ もしかして、お前、ハチマコウイルカを…？

カルド 網に掛かって死んだハチマコウイルカが手に入ったんよ。それを解体して…。

ニエフ 内臓を取り出したんか？

カルド うん。

ニエフ イルカを解体したんか。

カルド …ハチマコウ酸を取り出さんといけんけね。

ニエフ イルカを解体したんだな。

カルド あ、うん。僕じゃないけど。

ニエフ お前の指示でやったんだな。

カルド え、あ、うん。

ニエフ 軍法裁判モノだぞ。世間にバレたら暴動が起きる。

カルド だって捕獲した訳やないし、死んだるイルカを…。

ニエフ それ誰が証明するんか。

カルド …。

ニエフ タナビテの人間がハチマコウイルカを手を掛け、内臓を取り出したらもう、それが既に死んだるイルカだろうが関係ない。お前は、戦争に勝つためにタナビテの魂を売り渡したんぞ。

カルド でも、これで爆弾が出来るんよ？勝てるんよ？

ニエフ 誰にやらせたんか？

カルド …ウチの、居候に。

ニエフ サザイホか。

カルド うん。

ニエフ あいつ！

カルド 僕が頼んだんやから…。

ニエフ 黙つとくぞ。お前を売り渡す訳にはいかん。

カルド うん。

ケイジエンがアガタを連れてやって来る。

ケイジエン アガタ兄ちゃん、何が言いたかったの？

アガタ あ、か、に、や…。

ケイジエン うん、見えるよ。お兄ちゃんの見ているのが見える。

アガタ ゆ、な、ご、る…。

ケイジエン ユナゴルが来るんやね。

アガタ そこで預言者は出て行き、娘とその婿に言った、立ってこの場所から出て行きなさい。神がこの街を滅ぼそうとしておられるから。

ケイジエン そうなの？ そうなるの？

カルド 兄ちゃん何言いよるん？

ニエフ アガタ！

アガタ しかし彼らにはそれが冗談のように聞こえた。

カルド 何が言いたいん？

ニエフ はっきり言ってくれ、アガタ、お前には何が見えとるんか？

アガタ しかし彼らにはそれが冗談のように聞こえた。

ケイジエン しかし彼らにはそれが冗談のように聞こえた。

その意味は分からなかった。けれども、とてつもなく大きなモノがやって来る予感を、カルドとニエフは感じていた。

ファンファーレ。

新型爆弾が完成したのだ。

テダ家の居間は、新型爆弾砲撃の準備で騒然とする。

⑪ 新しい爆弾

テダ家の居間に新型爆弾の発射スイッチが用意されている。

その家に似つかわしくない、メカニックなスイッチ。

それを取り囲む、テダ家の皆、スクロブ、トエジエロ総統、ダイノア先生、亡命者の2人。

そしてアガタの傍にはケイジエンが居る。

スクロブ えー、それでは、新型爆弾の完成を祝しまして…、えー、しかし祝しながらも軍事機密ゆえ、秘密裏に、粛々と「発射の儀」を執り行いたいと思います。

皆、静かに拍手。

スクロブ 粛々とした拍手ありがとうございます。この度、我がタナビテ軍の英雄…テダ・カルド君の指揮のもと、ユナゴルからの亡命者…ゲティ・ストラウト氏の全面協力によって、悲願の新型爆弾完成と相成りました。まさにユナゴル、タナビテ両国の共同作業によって両国の平和が訪れるのです。

皆、静かに拍手。

スクロブ 粛々とした拍手ありがとうございます。それでは、さっそくトエジエロ総統に、発射ボタンを押していただきたいと思えます。あ、あくまでもお静かに、粛々とお願ひします。

皆、粛々と拍手。

トエジエロ ご指名にあずかりましたトエジエロです。本来ならば、はいはい押しちゃうよーみたいな感じで押そうかな？と思ってたんですけど、ココは開発責任者でもある、テダ・カルド君に自ら押してもらおうのがいいんじゃないかなーって思ったんですけど…。

カルド ええー？

スクロブ おっと、トエジエロ大統領のサブライズ、皆さんどうでしょう？

皆、肅々と賛成の意を述べる。

スクロブ はいはい、皆さん肅々と賛成の意を表明されているので、これはサブライズ成功ということでカルド君、よろしくお願いします。

カルド (トエジエロに) いいんですか？

トエジエロ やっちゃってやっちゃって、もう押しちゃって、平和訪れちゃって。

スクロブ カルド君、発射ボタンを押す荣誉は、君の手に、ある。

ニエフ カルド…。

キモエ 頑張る。

カルド …はい。

スクロブ 戦争を終わらせた英雄になるんだよ。

ダイノア じゃ、カルド君の名前は永遠に語り継がれるってコト？

スクロブ 間違いないですねえ。

サザイホ そのうち、そんな記録すら消えてなくなるよ。

アガタ 消えて無くなる。

ケイジエン アガタ兄ちゃん…。

サザイホ 我々は今この瞬間、この場所に居ただけ。いずれ消え去る身だ。

カルド 後世に、その名を残します。

サザイホ ふん。

スクロブ では、どうぞ。

と、カルドがボタンを押そうと…近寄ると、ニエフがその手をつかむ。

カルド え？

ニエフ 呪われたボタンをお前に押させるわけにはいかん。俺が押す。

カルド はあ？

スクロブ おいおい。

ニエフ 43棟の大砲守、テダ・ニエフが押します。息子には、こんな呪われた事はやって欲しくない。

カルド 父さん、なん手柄を横取りしよるん？

ニエフ 手柄とか要らん、お前にこんな大量殺戮はさせたくない。やるなら既に血で穢れたこの手で。

カルド いやいやいや、父さんは結局、敵前逃亡の尻拭いをしたいんやろ？

ニエフ そんな訳なからうが！

カルド 余計な気遣いはいらんよ。自分で押す。

ニエフ お前…。

キモエ (ニエフを制して) カルド、やんなさい。

カルド はい。

と、ニエフとキモエが内輪揉めをはじめ。
それを皆、呆然と見ているが…。

スクロブ ユナゴルの首都、ナゴルに向けて…。

と、いよいよ…。

ゲティ え？ちよつと待て。

スクロブ なんだ？

ゲティ え？首都？

スクロブ 首都だよ？何？

ゲティ 海底神殿をぶっ壊すんじゃないのかよ。

スクロブ はあ？

ゲティ おい、坊ちゃん、どういうことだ？

カルド 計画は変更となった。

ゲティ 話が違っちゃねえかおい。

スクロブ 何の話だ？

ゲティ 俺はこの坊ちゃんと約束したんすよ、海底神殿をぶっ壊すんやったら新型爆弾に協力してもいいって。

スクロブ そうなのか？

カルド そんな話はしていません。彼は私の命令に従って作っただけです。

ゲティ お前…。

スクロブ もういいよそんなのどうでも、首都ナゴルって決まってるんだから。ほら、押しちゃって。

ゲティ ハチマコウイルカ、この坊ちゃん、手に入れてきたんすよ。

スクロブ そうなのか？

カルド …。

スクロブ カルド君、君は私に嘘の報告をしたのかね。

カルド …。

スクロブ ハチマコウイルカを使わずに完成したと君は言ったね。

ゲティ イルカ使わんで完成できる訳なからうが。

スクロブ この事が公になると大変な事になる、と何度も君に忠告した。

カルド はい。

スクロブ どうやって手に入れた？まさか君自ら漁に行った訳じゃあるまい。

カルド …彼（サザイホ）に頼みました。

サザイホ おいおい。

スクロブ （サザイホに）お前がイルカに手をかけたのか。

サザイホ 俺は漁師からもらったゴミ袋をこの坊ちゃんに渡しただけっすよ。中身

の事は知らないよ。え、あれ、イルカだったの？

スクロブ ハチマコウイルカの捕獲は重罪だ。

サザイホ 俺はカルド君に頼まれただけです。イルカを調達して来たら、俺の完全な自由を保障してやるって言うから。

カルド そんな約束してません。

スクロブ 今はもう細かい事はいい、関係した者は厳正に処罰される。

カルド はい…。

サザイホ え、俺も・

スクロブ もちろんだ。

サザイホ え、何すか、俺はもう用無しつちゆう事ですか？

スクロブ 黙れ。

サザイホ ちゃんとテダ家を監視しとったじゃないですか。

ニエフ 何だ？

サザイホ ユナゴルからの元スパイが怪しい動きをしないか、見張つとったんですよ。タナビテ軍に頼まれて。

ニエフ って、誰を？

サザイホ （キモエに）ゴメンねえ。俺も立場あるから。

キモエ、サザイホに近づいて思いきりたく。

ニエフ えええ？

カルド どういうこと？

スクロブ まあ、そういう事です。よ。（キモエに）ですよね？

ニエフ おい、お前、何か言わんか。

キモエ （腹を決めて）サザイホさんとは同じ時期にユナゴルから渡ってきて活動してました。

スクロブ 彼はすぐタナビテ軍に捕まって、タナビテに寝返って、諜報活動。

サザイホ キモエさんは姿をくらし、タナビテの男と結婚。

カルド ええ？

ニエフ 俺はそういうの鈍いけね、でも、何となく気付いとったんやけどね、いや、お前はさ、いい女房やったんやけどね、子ども出来て、可愛くって、いい家族やったんやけどなあ、そういうのがあつたけ、もう、贅沢言わんでいいやんって思っとったんよね。

キモエ ゴメンなさい。でも、子どもが生まれてからはね。

ニエフ アガタは知っとったんかも知れんなあ、それ知っとってお前について行かんかったんかも知れん。それ分かって発狂したんかも知れん。

キモエ あの事件から一切仕事は辞めた。タナビテで生きて行こうって決めた。これは本当。

ニエフ 恨んどらんよ、感謝しとるくらいや。

カルド 滅茶苦茶やん。

キモエ ごめんなさい。

カルド 何かもう滅茶苦茶になつてもうた。

と、カルドが発射スイッチを押そうとする。
のをキモエが制し、自分が押そうとする。
それをまたニエフが止め。

ニエフ 俺が押す。この呪われた爆弾は、俺が。俺が全部引き受ける。

カルド いや、これは僕の爆弾や、父さんには押させん。

と、親子でスイッチの取り合い。

スクロブ なんだこれ…、トエジェロ総統、やっぱ総統が押してください。

トエジェロ いいの？

スクロブ はい、もうこの家族には荷が重すぎます。

トエジェロ だよなー、じゃ。

と、トエジェロが押そうとすると。
レイルーがナイフを突きつけ、止める。

レイルー やめて。

トエジェロ ええ？何？

スクロブ お前、何やってんだ。

カルド レイルー？

ゲティ よし。

レイルー やっぱ駄目だ。ユナゴルが無くなるのは駄目だ。

カルド はあ？

レイルー ゴメン、やっぱユナゴルが無くなるのは嫌だ。

カルド 戦争を終わらせて、一緒に新しい生活を始めようって言ったじゃない。

レイルー うん。

カルド そのボタンで全部リセットしようって。

レイルー うん。

カルド 争いの無い世界で、幸せな家庭を作ろうって。貧乏でもいいから、ちゃんとした家庭を作ろうって。父さんと母さんが居て、みんな仲良くって、ウチみたいな家族がいいよねって。

レイルー そういう夢も、見た。見た。

カルド 俺、何なん。何やったん。

ゲティ レイルー、まずカルドをやれ！そいつを生かしたら。

レイルー 兄ちゃんうるさい（と、ゲティにナイフを）。

ゲティ おい、お前、何やってんだ。

カルド もう、全部無くなればいい。もう、全部無くなればいい。

と、アガタが興奮します。

ダイノア アガタ君が何か言ってます。

ケイジェン 何？アガタ兄ちゃん何？

アガタ ぜんぶ、なくなる。

ケイジェン 無くなるって何が？

アガタ 来る。

ダイノア 来るって、何が？

アガタ ひかり。

ケイジェン 光？

アガタ ユナゴルから。大きな光が。

カルド 全部全部全部、無くなればいい！

と、カルドが新型爆弾のスイッチを押してしまふ。
発射音。

アガタ この時、本当にすべてが消えてしまうということ、誰も知らなかった。

カルド 俺の爆弾だ。

ゲティ いや、俺の爆弾だよ。

ニエフ 俺の大砲が撃ったんだよ。

レイルー これで何か変わる？

サザイホ たいして変わんねーだろ。

キモエ いや、変わる。

ダイノア またバランスが崩れるだけだよ。

スクロブ 我がタナビテの勝利は間違いないでしょう。

トエジェロ カルド君、戦争終わったら、女の子紹介してよね。

アガタ 来る。

カルド ん？

ニエフ え？

レイルー 何が？

アガタ 光、あれ！

ケイジェン アガタ兄ちゃん！

すべてが光に包まれ、轟音と共に闇がやって来る。
ユナゴルの新型爆弾がタナビテに投下されたのだ。

⑫ はじまり

真つ暗闇の中、アガタと思われる人物にしか光が当たって無い。

アガタ

その時、神が「光、有れ！」と仰せられた。すると光が出来た。神はその光を良しとされた。そして神は、光と闇とを区別された。神は光を昼と名付け、闇を夜と名付けた。こうして夕が有り、朝が有った。次いで神は「大空よ、水の間に有れ。水と水の間に区別が有るように。」と仰せられた。こうして神は大空を造り、大空の下にある水と、大空の上にある水とを区別された。神は大空を天と名付け、天に有る水を雲と名付けた。さらに神は「天の下の水は一所に集まれ。乾いた所が現れよ。」と仰せられた。神は乾いた所を地と名付け、水の集まった所を海と名付けた。神はこれらを見て良しとされた。

⑬ おわり

廃墟となった大砲団地で、正気に戻ったアガタが墓を作っている。
既に破片で作った簡素な墓が幾つかある。
そこにカルドが現れる。

カルド 兄ちゃん？

アガタ おお。

カルド 生きとったんや。

アガタ お前も、生きとったんやな。

カルド 何しよん？

アガタ お墓を作りよる。

カルド それ、誰の墓？

アガタ ケイジエン。

カルド 俺も作る。

と、カルドも瓦礫を集めてきて、墓を作り始める。
この世を去った者たちの声が聞こえる…。
カルドは瓦礫の中から一枚のカードを見つける。

カルド これ。

アガタ なんそれ。

カルド ドドンコ、やっぱ兄ちゃん持とったんやろ。

アガタ 知らんちゃ。

カルド とほけてから。

アガタ 俺のやねえちゃ。

カルド 嘘ばっかり。

アガタ 嘘とかついてねえちゃ。

カルド 兄ちゃんはズルで嘘つきや。
アガタ ズルとかしてねえちゃ。

と、アガタはカルドに銃を向ける。

カルド え？

アガタ 皆の仇や。

カルド はあ？

アガタ これ、みんなお前が殺したんぞ。

カルド 俺関係無しに、ユナゴルが撃ってきたんやん。

アガタ 何も出来んかった。

カルド うん。

アガタ 俺もお前も、何も出来んかった。

カルド そうやけど。それ、どうするん？

アガタ どうしよつか？撃とうか？

カルド 何で撃つん？

アガタ 気が済まんのよ。

と、アガタは自分のこめかみに銃を当てる。

カルド それで何か変わるやろうか？

アガタ わからん。

カルド 祈って。兄ちゃんは祈ったらいい。

アガタ うん。

再び、この世を去った者たちの声が聞こえる…。
カルドがアガタの銃をゆっくり取り上げる。

アガタ 折ったら、何か変わるやろか？

カルド わからん。

アガタ わからんよな。

カルド うん、わからん。

アガタ わからんよなあ。

暗転。

銃声。

終幕。

『大砲の家族』

作 泊 篤志

初版 2013年10月3日 発行

発行 飛ぶ劇場

info@tobugeki.com

※上演希望の際は必ず上記へお問い合わせ下さい。

